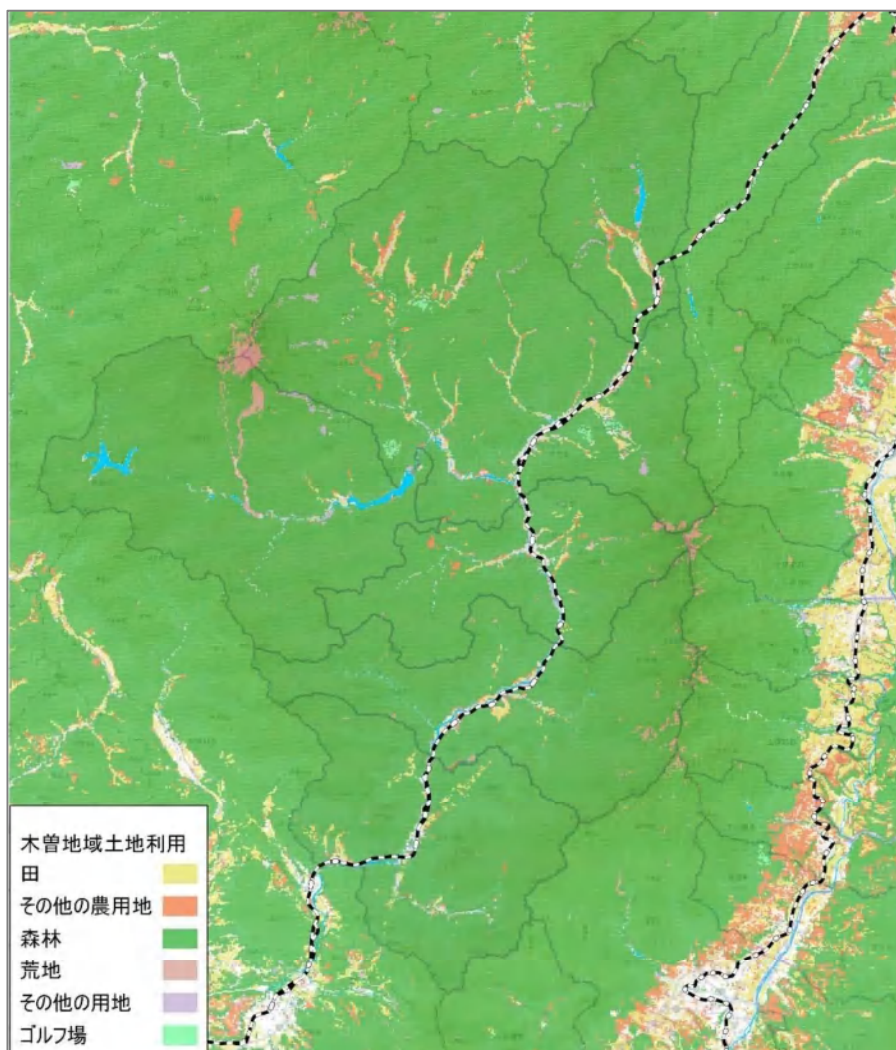


木曾地域公共交通計画[資料編]

1. 木曽地域の概況

1-1 地形・土地利用

- 木曽地域は県の南西部に位置し、域内面積の約 93%を森林が占める。
- 平坦地は域内を北から南に流れる木曽川の流域と開田高原、木曽駒高原などに限られており、これらの平坦地に市街地や居住地が形成されている。
- 標高が高く、最も北に位置する木祖村役場付近の 944m、最も南に位置する南木曽町役場付近が 411mとなっている。
- 冬期は積雪もあり、公共交通の運行への影響もみられる。



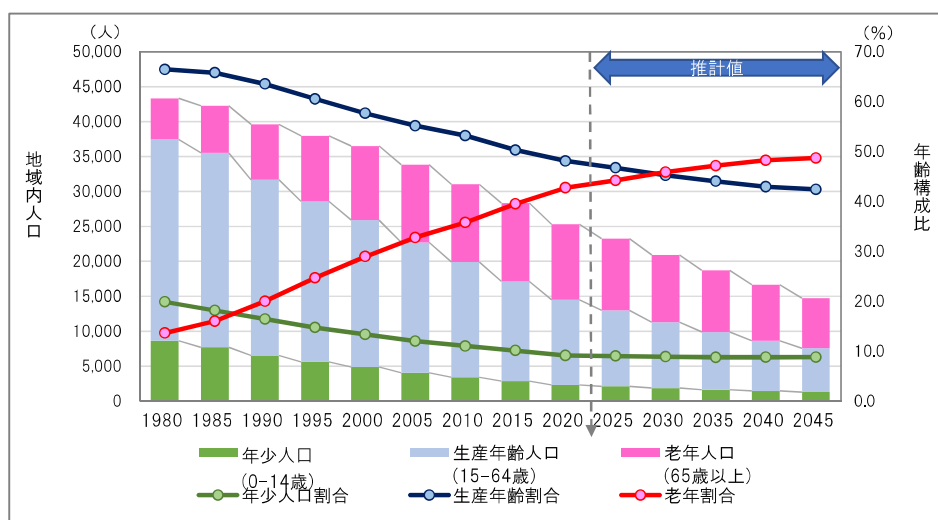
地目	面積(k㎡)	比率
田	20.34	1.3%
その他の農用地	16.19	1.0%
森林	1451.29	93.9%
荒地	14.10	0.9%
建物用地	15.53	1.0%
道路	1.41	0.1%
その他の用地	5.67	0.4%
河川湖沼	19.83	1.3%
ゴルフ場	1.79	0.1%

出典：国土数値情報土地利用細分メッシュ（国土地理院：平成 28 年）

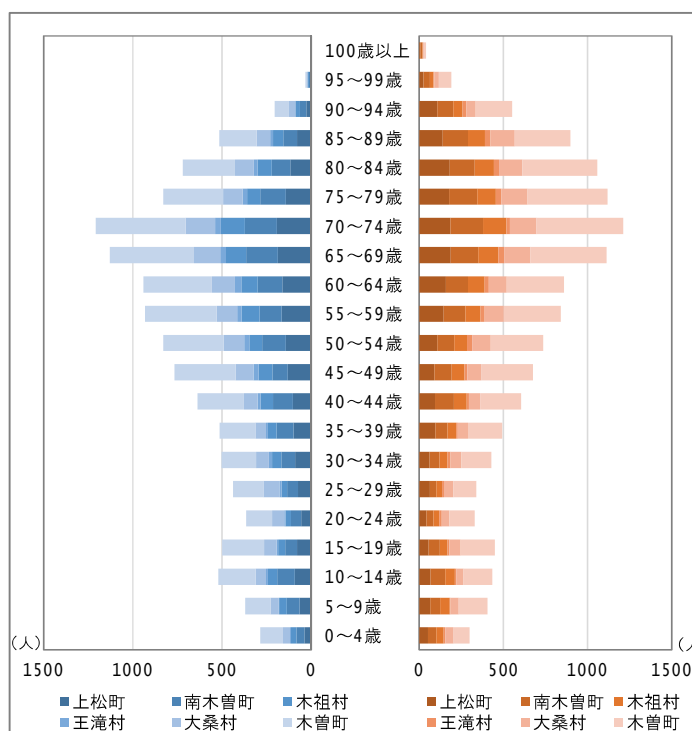
1-2 人口動態

(1) 人口の推移と構成

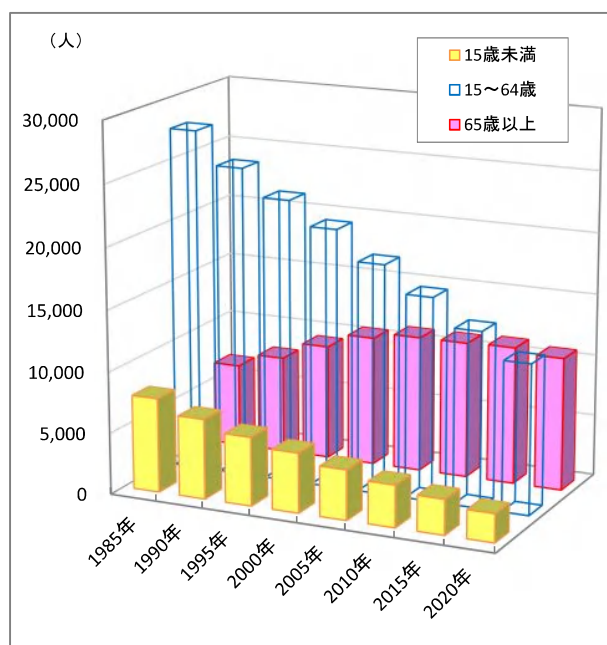
- 2020年における木曽郡内6町村の人口は25,310人で、1980年からの40年間で42%の減少となっている。
- 今後も人口減少は続き、2045年の推計値では14,700人となっている。ここからさらに42%減少することが見込まれている。
- 少子高齢化が顕著で、高齢化率は42.7%で今後も高まることが見込まれている。ただし、高齢人口自体もすでに減少局面に入ってきている。
- 人口ピラミッドからも少子高齢化が明らかであるが、女性の人口が男性に比べて20～30代で少なく、70代以上で多くなっていることが特徴的である。



出典：現況＝国勢調査（総務省：1980～2020年）



出典：国勢調査（総務省：2020年）

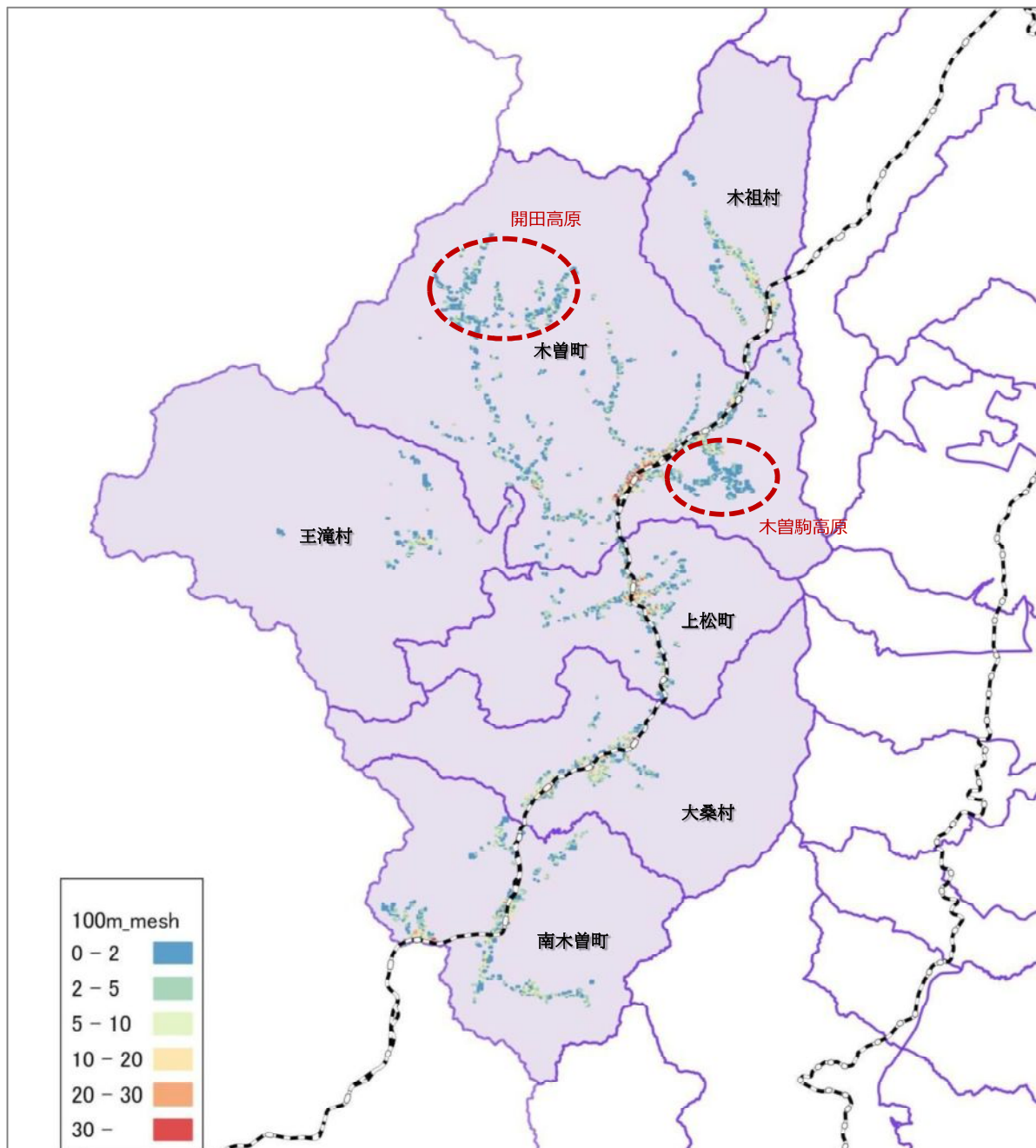


出典：国勢調査（総務省：1985-2020年）

(2) 人口分布

○木曽地域の人口は、木曽川とその支流沿い及び開田高原、木曽駒高原などの限られた平坦地に分布しているが、その他の山間部や傾斜地などにも集落が点在している。

○木曽町中心部、上松町中心部、南木曽町中心部などで人口密度が高く、100mメッシュあたりの人口が30人を超える地区もみられる。



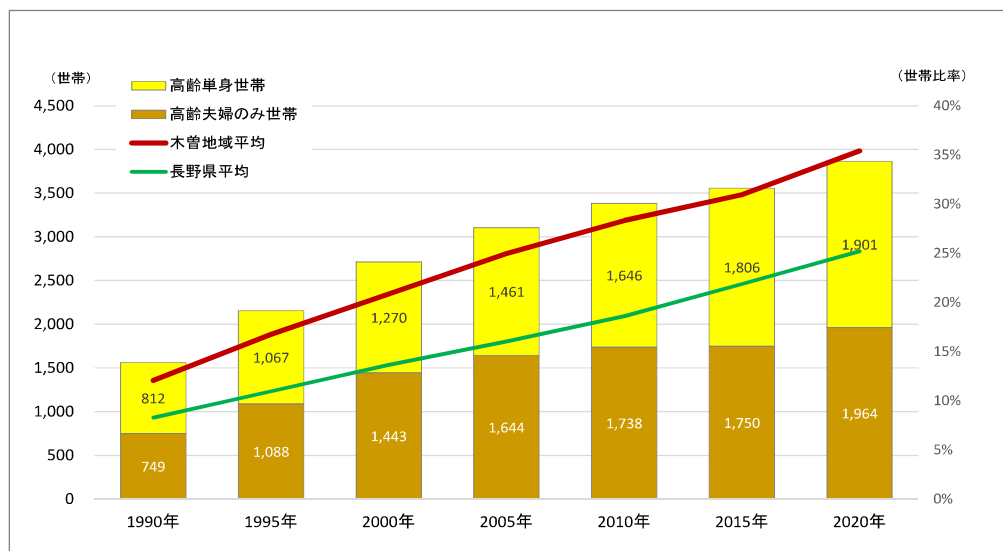
出典：国勢調査（総務省：2020年）

(3) 高齢世帯の状況

○2020年における木曽郡6町村における高齢者のみ世帯数は3,865世帯で、この30年間で2.5倍に増加している。

○全世帯数の35%を占めており、この比率は長野県全体に比べて10ポイント高い。

○高齢者のみ世帯のうちの約半数が、高齢者の単身世帯となっている。

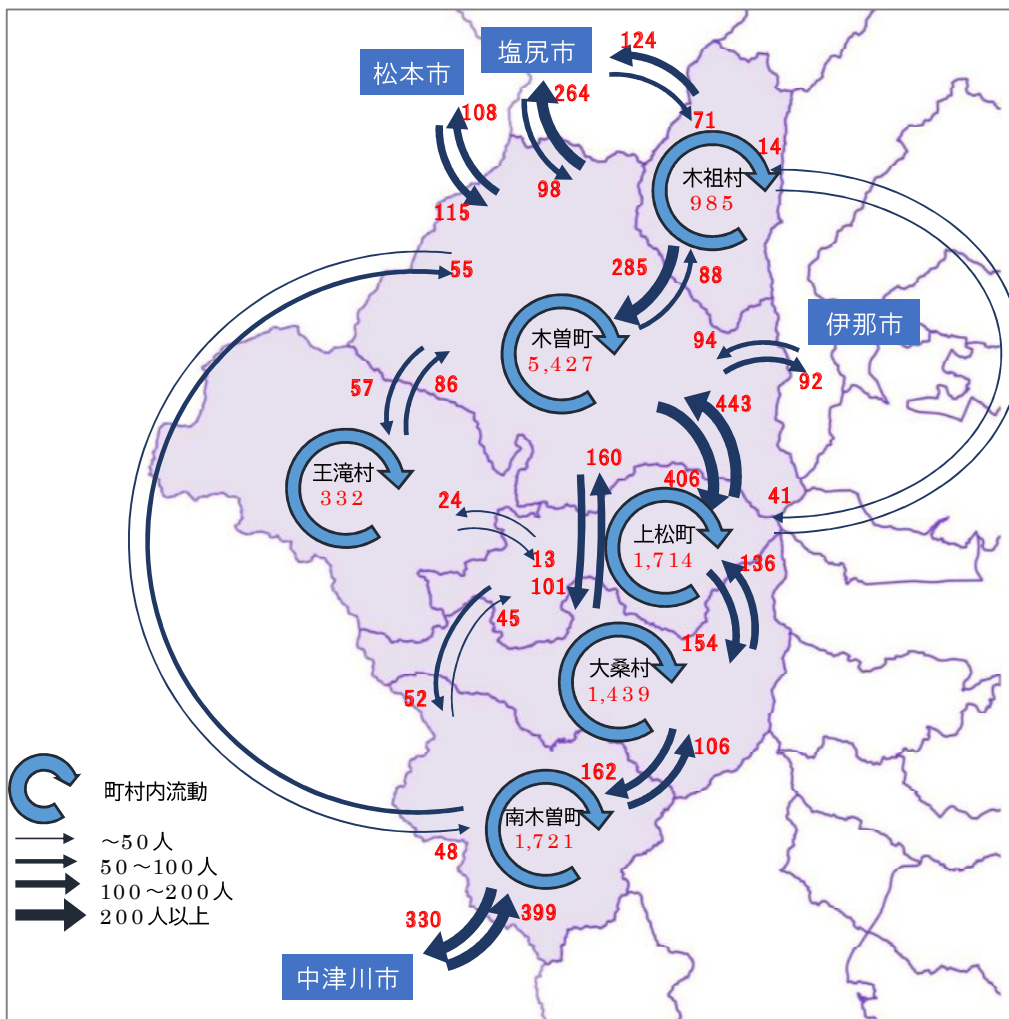


出典：国勢調査（総務省：1990年・2020年）

1-3 人の移動の状況

(1) 就業者・通学者の流動状況

- 就業者・通学者の流動としては、郡の中心である木曽町に向かう動きが目立ち、上松町、木祖村、大桑村の順で多くなっている。
- 南木曽町からは岐阜県中津川市への流動が目立ち、木曽郡内全体の合計よりも多くなっている。中津川市への流動は、木曽町への流動の約7倍にあたる。
- 木曽町、木祖村からは塩尻市、松本市への流動も比較的多い。権兵衛トンネルの開通によりつながった伊那市への流動は、松本市への流動よりも少ない。

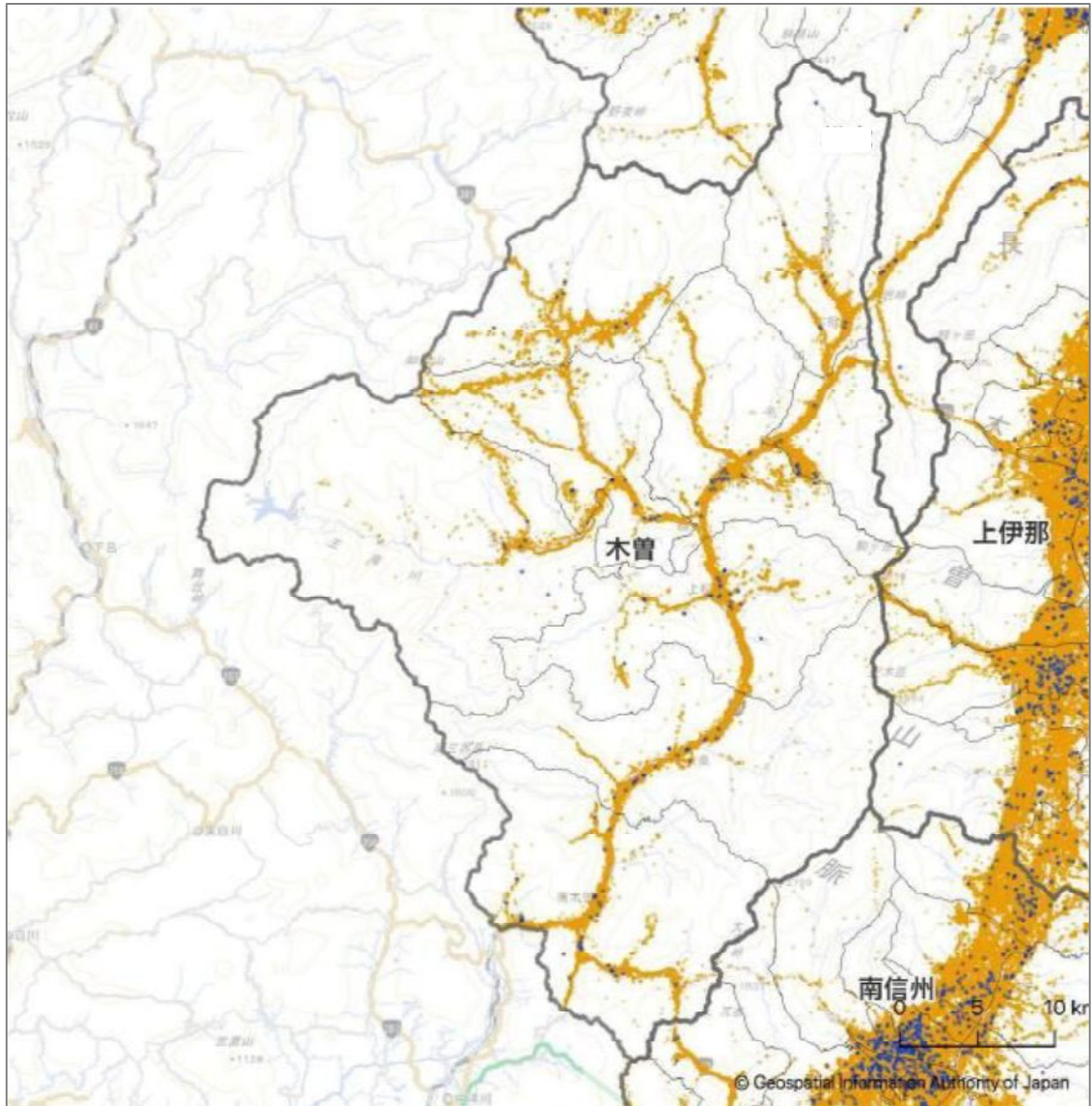


		流出人口											
		上松町	南木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	木曽町	松本市	塩尻市	伊那市	飯田市	中津川市	高山市
流入人口	上松町	1,714	45	41	13	136	406	11	37	11	4	49	
	南木曽町	52	1,721	9	—	162	48	2	4	—	9	330	
	木祖村	14	1	985	1	4	88	13	71	5	1	2	
	王滝村	24	1	6	332	4	57	4	1	2	—	3	
	大桑村	154	106	6	4	1,439	101	3	7	3	1	87	
	木曽町	443	55	285	86	160	5,427	108	264	92	14	18	2
	松本市	25	5	94	3	18	115	119,791	9,797	344	132	4	4
	塩尻市	22	2	124	1	9	98	8,103	27,921	185	20	—	1
	伊那市	25	1	24	—	1	64	233	188	30,113	196	1	
	飯田市	1	4	3	—	—	2	87	39	171	53,332	38	2
	中津川市	13	399	3	2	86	18	2	2	1	25	—	
	高山市	—	—	—	—	—	2	8	—	1	2	—	—

出典：国勢調査（総務省：2020年）

（３）移動と滞留の状況（人流ビッグデータ）

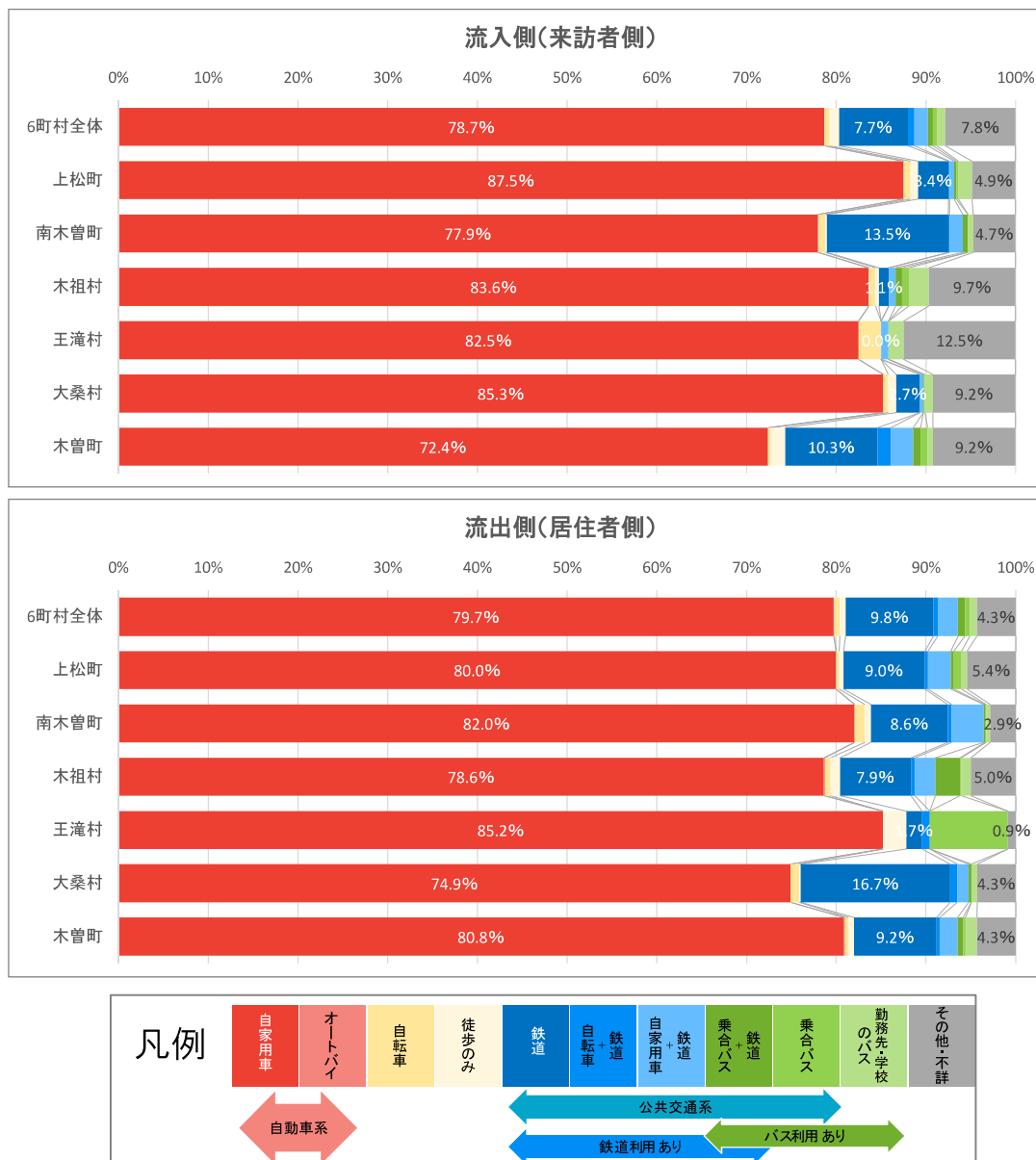
- 下図は、携帯電話所有者の位置情報（GPS）に基づく、移動・滞留の状況である。
- 黄色は移動経路、紫色は自宅外における一定時間以上の滞留箇所を示している。
- 一般に、人の活動エリア全体が黄色に、事業所・学校・病院・商店などの目的施設が紫で表示されるが、木曽地域においては、地図区画内の東側にある上伊那・下伊那エリアに比べて、非常に範囲が狭く、まとまった滞留箇所も少ないことがわかる。



出典：KDDI 携帯端末位置情報データ（2021 年 10 月 1 ヶ月）
オレンジ＝移動経路 紫＝滞留箇所

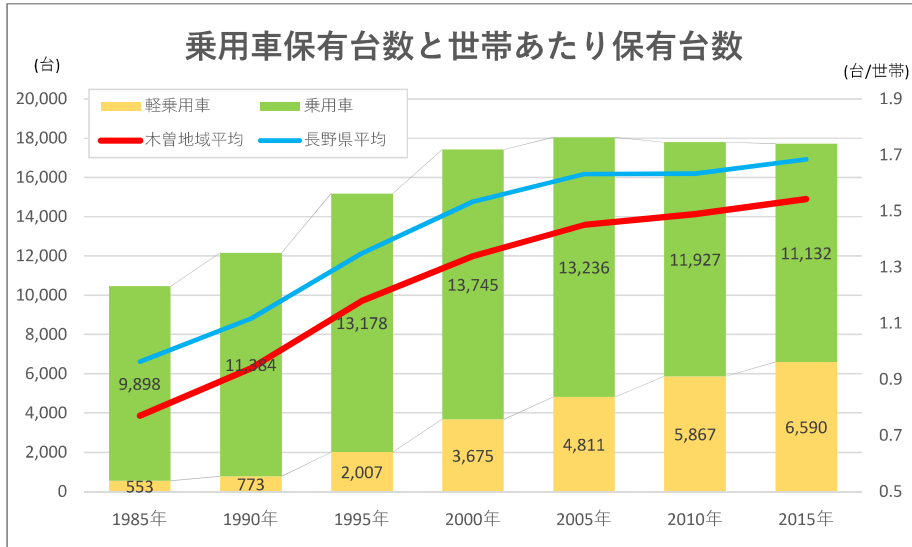
(2) 就業者・通学者の交通手段

- (1) で示した通勤・通学流動における交通手段については、6 町村全体で流出入ともに「自家用車」が約 80%と多数を占めている。
- 公共交通の利用率（グラフの青系〈鉄道〉＋緑系〈バス〉）については、流出側が 13.8%、流入側が 10.9%となっており、流出側のほうが高い。
- 町村別にみると、流入側では木曽町が 15.9%、南木曽町が 15.8%となっており、高校生の通学流入がある町で高くなっていることがわかる。
- 一方、自町村の住民の公共交通の利用率は流出側に現れ、6 町村のなかでは大桑村が 19.0%と最も高くなっている。



1-4 自動車の保有状況

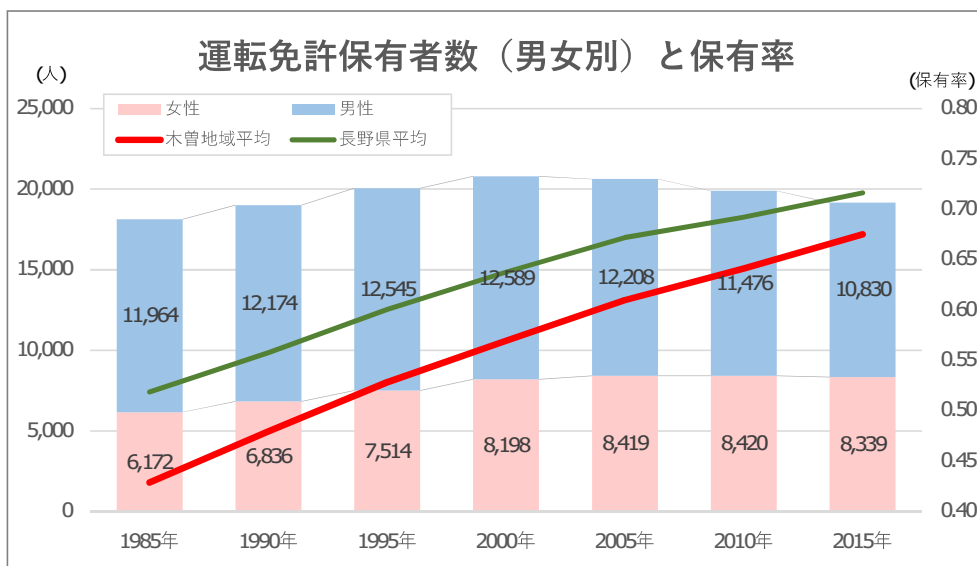
- 木曽郡 6 町村における 2015 年の乗用車の保有台数は、軽乗用車とあわせた台数は 17,722 台で、この 30 年間で 1.7 倍に増加しているが、ピークである 2005 年からは 2%ほど減少している。
- 普通乗用車だけでみると、2000 年がピークとなっており、16%の減少となっている。
- 一方で、軽自動車は急増しており、この 30 年で約 12 倍の増加となっている。
- 一世帯あたりの保有台数は 1.54 台で、長野県全体の平均である 1.68 台に比べて低い状況にある。



出典：運輸統計（長野運輸支局：1985-2015 年）

1-5 運転免許の保有状況

- 木曽郡 6 町村における 2015 年の運転免許保有者数は 19,169 人で、1985 年から保有者数がピークとなった 2000 年にかけては 15%ほど増加したが、人口減少に呼応するかたちで、その先の 15 年で 8%減少している。
- 免許保有者の男女比は 1985 年には 66: 34 であったが、56: 44 まで女性の保有者数が大きく増加している。
- 人口に対する免許保有率は 67%で、長野県全体の 72%に比べて少なくなっている。



出典：運転免許統計（長野県警：1985 年-2015 年）

1-6 公共施設等の立地

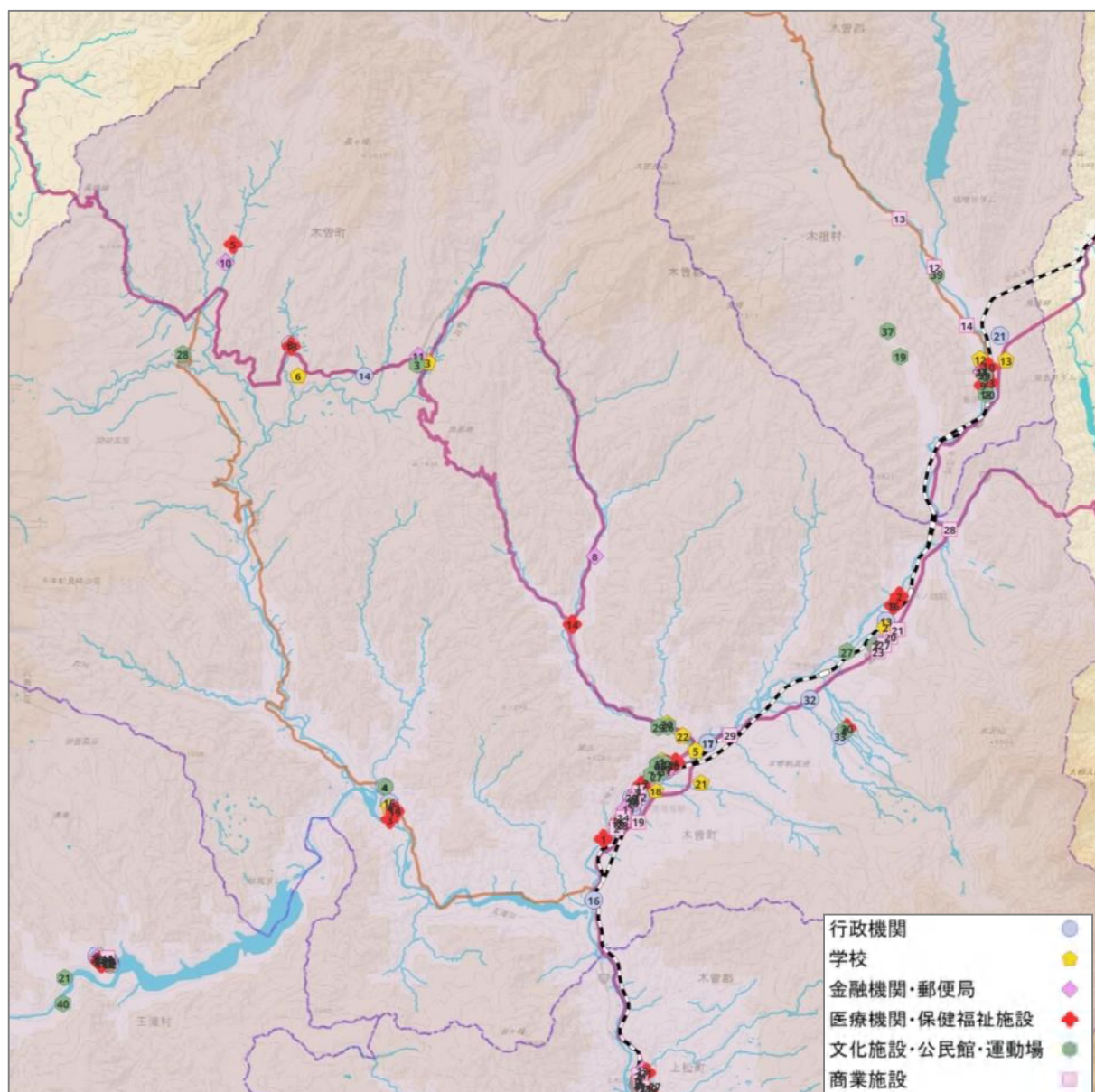
【行政機関】木曽福島市街地が、郡全体の中心となっており、国の機関、県の機関などが立地している。

【教育機関】高校は木曽福島市街地に「木曽青峰高校」、南木曽町に「県立蘇南高校」がある。

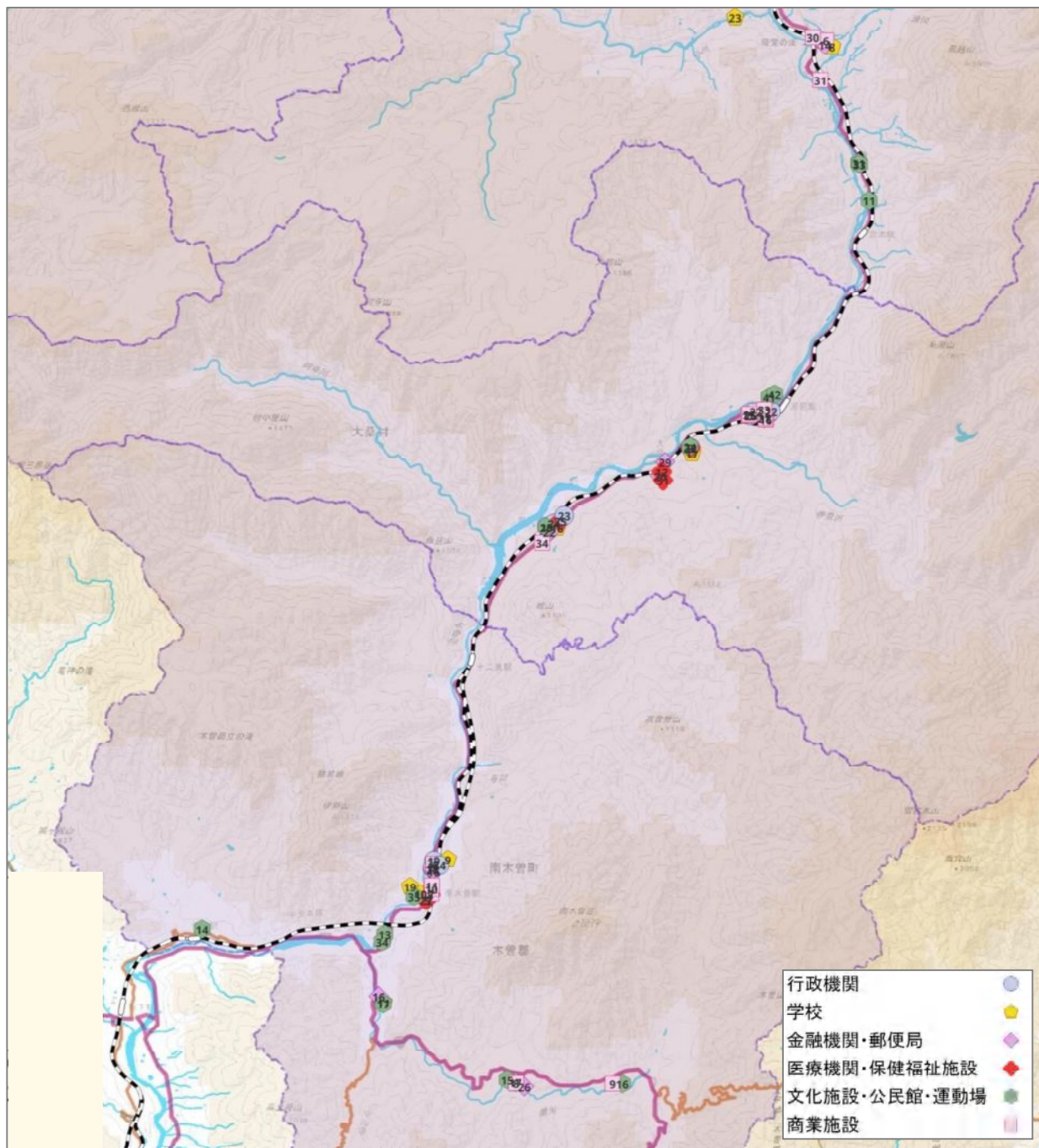
【医療機関】入院施設を備えた総合病院は、郡内では木曽病院のみとなっている。この他、各町村や支所地域には診療所がある。

【商業施設】郡内の大規模商業施設としては、木曽福島の「イオン木曽福島店」「Aコープ木曽」のほかに大桑村の「マルトシ」がある。この他に、各町村に小規模の食料品店等が立地している。

北部地域



南部地域



施設リスト

行政機関		
役場・支所		
1	木曽町	木曽町役場
2		木曽町日義支所
3		木曽町開田支所
4		木曽町三岳支所
5	上松町	上松町役場
6	南木曽町	南木曽町役場
7	木祖村	木祖村役場
8	王滝村	王滝村役場
9	大桑村	大桑村役場
10		大桑村野尻出張所
警察・消防		
11	木曽町	木曽警察署
12		木曽福島駅前交番
13		日義警察官駐在所
14		開田警察官駐在所
15		三岳警察官駐在所
16		木曽広域消防本部・木曽消防署
17	上松町	木曽警察署 上松町交番
18	南木曽町	木曽警察署 南木曽町交番
19		木曽広域消防本部 木曽消防署南分署
20	木祖村	木曽警察署 木祖村警察官駐在所
21		木曽広域消防本部 木曽消防署北分署
22	王滝村	木曽警察署 王滝村警察官駐在所
23		王滝村消防団
24	大桑村	木曽警察署 野尻警察官駐在所
25		木曽警察署 須原警察官駐在所
その他行政関連		
26	木曽町	長野県木曽合同庁舎 (建設事務所・地域振興局・保健福祉事務所)
27		長野地方方法務局木曽支所
28		木曽福島簡易裁判所
29		木曽福島区検察庁
30		木曽税務署
31		ハローワーク木曽福島
32		国土交通省飯田国道事務所 木曽維持出張所
33		木曽広域連合
34	南木曽町	木曽森林管理署

医療機関・保健福祉施設		
病院・診療所		
1	木曽町	長野県立木曽病院
2		ひよし診療所
3		みたけ診療所
4		原内科医院
5	上松町	田澤医院
6		大脇医院
7		戸沢医院
8	南木曽町	医療法人篠崎医院
9	木祖村	奥原医院
10		徳山医院
11	王滝村	王滝村診療所
12	大桑村	古根医院
歯科医院		
13	木曽町	開田高原歯科診療所
14		JA木曽歯科診療所
15		鈴木歯科医院
16		ゆうあい歯科医院
17		あすなろ歯科医院
18		スマイル歯科クリニック
19		原歯科医院
20		はらの歯科医院
21	上松町	塚本歯科医院
22	南木曽町	水野歯科医院
23	木祖村	こばやし歯科医院
24	王滝村	王滝村歯科診療所
25	大桑村	古谷歯科医院
保健センター		
26	木曽町	木曽福島保健センター
27	上松町	上松町健康増進センター
28	木祖村	木祖村保健センター
29	王滝村	王滝村 保健センター
30	大桑村	大桑村 子育て世代包括支援センター
31		大桑村 地域包括支援センター

学 校		
小中学校		
1	木曽町	福島小学校
2		日義小中学校
3		開田小学校
4		三岳小学校
5		木曽町中学校
6	上松町	開田中学校
7		上松町立上松小学校
8		上松町立上松中学校
9	南木曽町	南木曽町立南木曽小学校
10		南木曽町立南木曽中学校
11	木祖村	旧 南木曽町立妻籠小学校
12		木祖小学校
13	王滝村	木祖村立木祖中学校
14		王滝村立王滝小学校
15	大桑村	王滝村立王滝中学校
16		大桑小学校
17		大桑村立大桑中学校
高等学校		
18	木曽町	木曽青峰高等学校
19	南木曽町	長野県蘇南高等学校
その他		
20	木曽町	長野県林業大学校
21		木曽看護学校
22		信州木曽看護専門学校
23	上松町	長野県上松技術専門学校

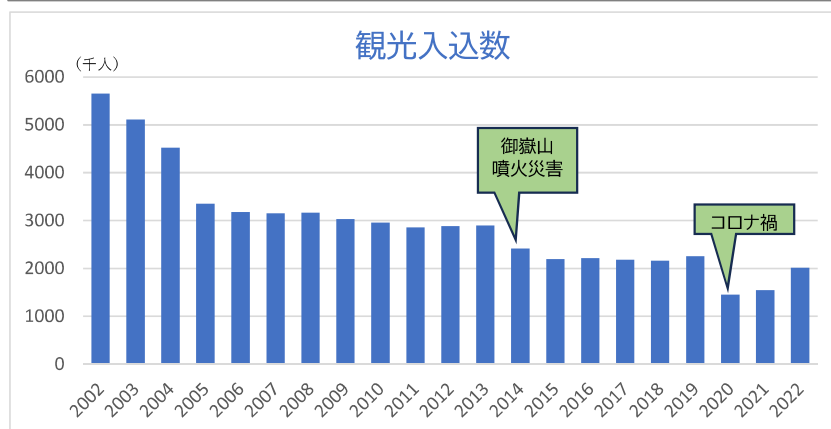
商業施設		
スーパー・食料品		
1	木曽町	イオン木曽福島店
2		Aコープそ店
3	上松町	株式会社大澤商店
4		久金商店
5		清水屋商店
6		しょうきち
7	南木曽町	丸正金沢屋商店
8		カネハン片山商店
9		カネチキリ小原商店
10		郷土民芸 石川
11	木祖村	サンショップ・イシカワ
12		マル五小林商店
13		原酒店
14	王滝村	まると食品
15		奥田秀大商店
16	大桑村	磯尾百貨店
17		マルトシ生鮮食品館 木曽須原店
18	大桑村	須原食糧販売店
19		ホームセンター
20	木曽町	ニューライフショップミズ
21		ハラケンホームセンター
22	大桑村	コメリハード&グリーン木曽店
23	大桑村	コメリハード&グリーン大桑須原店
ドラッグストア		
24	木曽町	アメリカンドラッグ木曽日義店
25	大桑村	アメリカンドラッグ 木曽大桑店
コンビニ		
26	木曽町	セブンイレブン木曽福島店
27		セブンイレブン木曽日義店
28		セブンイレブン木曽町神谷入口店
29		デイリーヤマザキ木曽福島新開店
30	上松町	セブンイレブン 木曽上松複合店
31	南木曽町	デイリーヤマザキ 木曽上松複合店
32		セブンイレブン 南木曽町店
33		セブンイレブン 大桑須原店
34	大桑村	デイリーヤマザキ大桑野尻店

金融機関・郵便局		
銀行・信用金庫		
1	木曽町	八十二銀行福島支店
2		長野銀行木曽支店
3		松本信用金庫木曽福島支店
4	上松町	八十二銀行 上松支店
5	南木曽町	八十二銀行 南木曽支店
郵便局		
6	木曽町	木曽福島郵便局
7		木曽福島上町郵便局
8		新開黒川簡易郵便局
9		宮越郵便局
10		開田郵便局
11	上松町	末川郵便局
12		三岳郵便局
13		上松郵便局
14	南木曽町	寝覚簡易郵便局
15		南木曽郵便局
16	木祖村	妻籠郵便局
17		開田郵便局
18	王滝村	王滝郵便局
19	大桑村	大桑郵便局
20		須原郵便局
21		野尻郵便局
22	J A	
23	木曽町	JA木曽本所・中部支所
24	上松町	J A木曽 上松支所
25	南木曽町	J A木曽 南木曽金融店
26		JAさそ 南木曽支所 簡出張所
27	木祖村	J A木曽 北部支所
28	王滝村	J A木曽 王滝生活店
29	大桑村	J A木曽 南部支所

文化施設・運動施設		
会館・ホール・公民館		
1	木曽町	木曽町文化交流センター
2		日義公民館
3		開田公民館
4		三岳公民館
5		木曽郡民会館
6		木曽教育会館
7		まつり会館
8	上松町	木曽文化公園文化ホール
9		上松町ひのきの里総合文化センター
10		上松町公民館
11		立町集会所
12	南木曽町	KINOTOCO
13		南木曽会館
14		田立公民館
15		開田公民館
16	木祖村	広瀬公民館
17		南木曽町公民館 妻籠分館
18		木祖村民センター
19	王滝村	木祖村民館 菅分館
20		王滝村民館
21		野口区コミュニティセンター
22	大桑村	大桑村女性若者等交流センター
23		大桑村くわっこ工房
24		大桑村図書館
25	大桑村	野尻地区館（大桑村公民館）
26		運動施設
27	木曽町	木曽福島体育館
28		日義体育館
29		開田高原体育館
30		県民木曽運動広場
31	上松町	木曽町温水プール
32		下河原運動場
33		一般社団法人木曽ひのきっ子ゆうゆうクラブ
34	南木曽町	上松町 B & G 海洋センター
35		渡島総合グラウンド
36	木祖村	南木曽町社会体育館
37		南木曽町 広瀬グラウンド
38	王滝村	きさらぎの里 運動公園
39		木祖村社会体育館
40	大桑村	小木曽グラウンド
41		松原スポーツ公園
42	大桑村	大桑村スポーツ公園
43		大桑村民体育館

1-7 観光の動向

- 長野県観光利用者統計にデータ掲載のある木曽地域内の主要な観光資源は下図の通りである。
- これら観光資源の入込客数の合計は直近の 2022 年において 201 万人となっており、コロナ禍で最も落ち込みが大きかった 2020 年からは約 1.4 倍に戻しているが、2002 年からの 20 年間では約 1/3 に減少している。



出典：長野県観光統計（長野県観光部：2002 年-2022 年）

2. アンケート調査結果関連

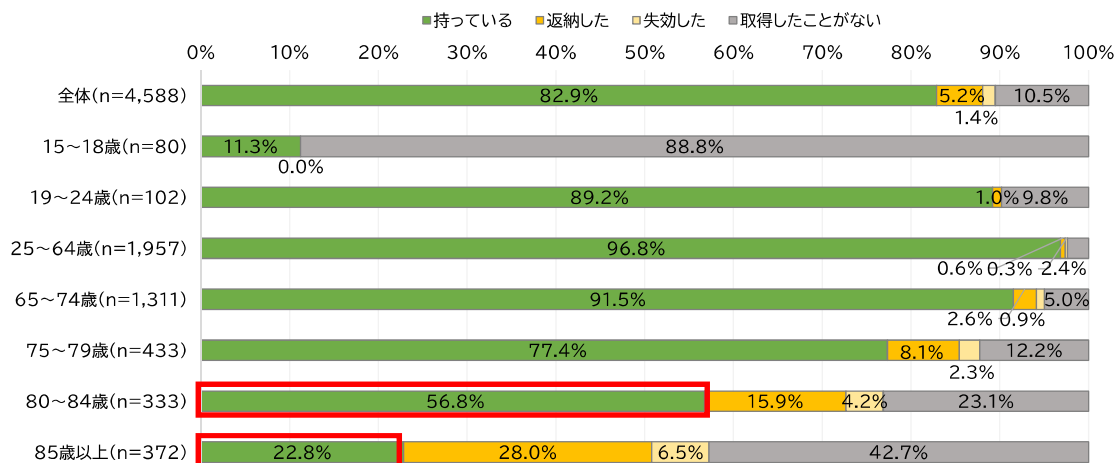
2-1 地域住民の移動実態と公共交通に対する意識など

(1) 免許保有と交通不便者の状況

①運転免許の保有状況

○木曽郡全体における運転免許の保有率は 82.9%となっている。

○年代別にみると 75 歳以上から保有率が低下し、80～84 歳で 56.8%、85 歳以上では 22.8%となっている。



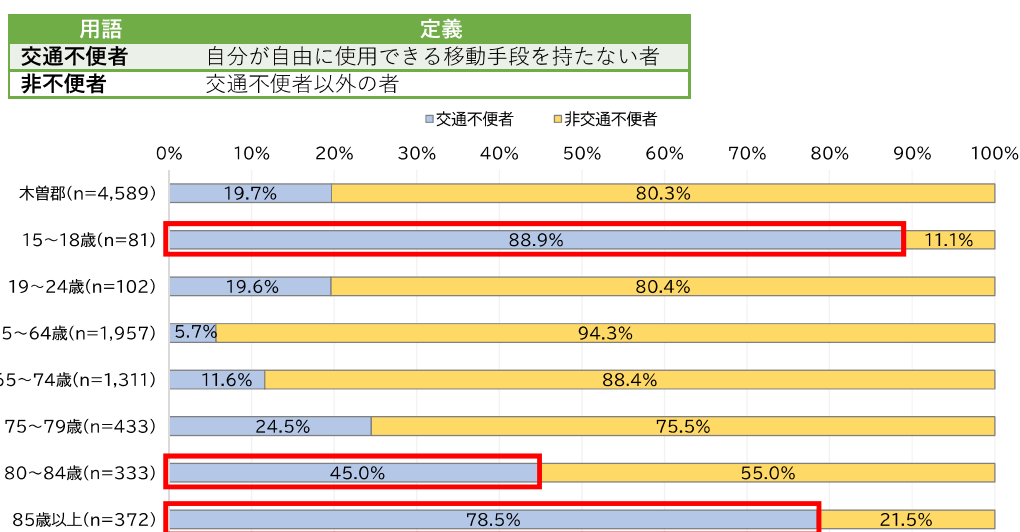
②交通不便者の割合

○木曽郡全体としての交通不便者の割合は 19.7%となっている。

(※交通不便者の定義は下表参照)

○年代でみると高校生の年代と高齢者で交通不便者の割合が高い。

○15～18 歳では 88.9%、85 歳以上では 78.5%と非常に高くなっている。



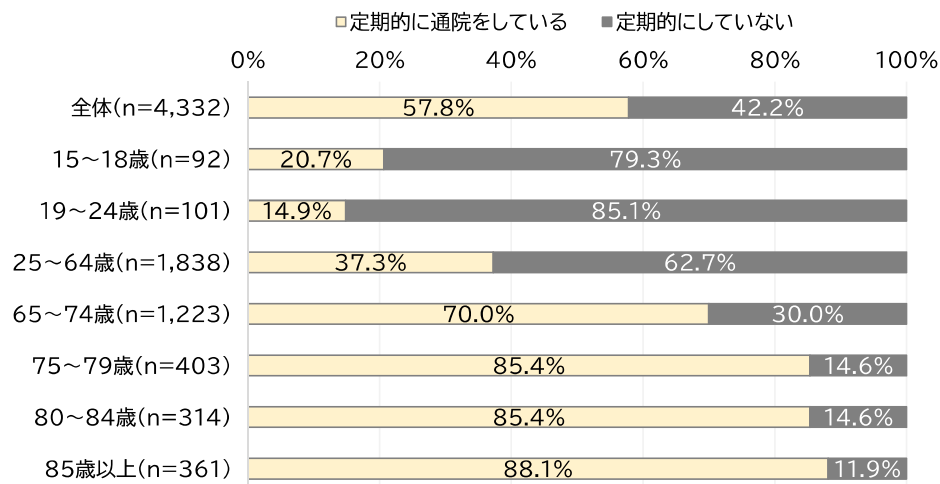
(2) 通院の状況

①通院移動の有無（回答者全員）

○木曽郡全体としては、**57.8%**が「定期的に通院している」と回答している。

○通院については年代別に状況が大きく異なり、**25～64歳**では**37.3%**にとどまるのに対し、**65歳**を超えると**70%**となり、**75歳**を超えると**85%**を上回る結果となった。

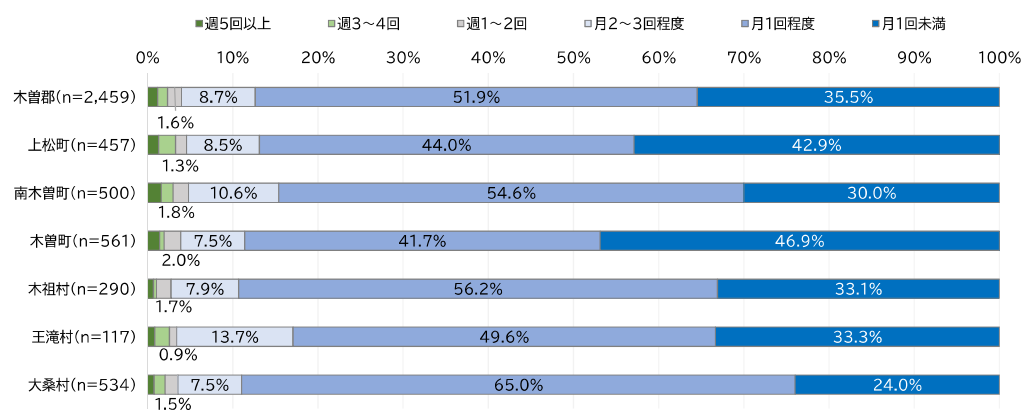
○高齢者にとって、通院移動の重要性が非常に高いことがうかがえる。



②通院の頻度（回答者全員）

○木曽郡全体としては、「月1回程度」が**51.9%**と最も多く、次いで「月1回未満」が**35.5%**で、両者を併せると**87%**となる。

○通院をしている人は多いものの、頻度は低く、移動の総量は多くないことがわかる。



③通院先（交通不便者のみ）

○主な通院先は木曽郡全体でみると「木曽病院」がもっとも多い。

○町村別にみると、通院先のうち「木曽病院」への比率がもっとも多いのは、木曽町、上松町、木祖村、王滝村で、利用率としては上松町が最も高く 54.1%となっている。

○南木曽町は町内の「篠崎医院」がもっとも多く、大桑村も村内の「古根医院」がもっとも多くなっている。

○中津川市の「坂下診療所」については、南木曽町で 2 番目に利用の多い通院先、大桑村では 3 番目に多い通院先となっている。その他の 4 町村からの通院は本調査結果からはみられなかった。

○大桑村からは、「坂下診療所」よりも「木曽病院」の利用が多いことがわかる。

(単位:人)

	県立木曽病院	木曽みたけ診療所	木曽ひよし診療所	原内科医院	鈴木歯科医院	原歯科医院	奥原医院	王滝村診療所	王滝村南科診療所	芦沢医院	大脇医院	高田整骨院	古根医院	古谷歯科医院
木曽郡	111	4	6	23	2	2	7	3	2	7	14	2	74	2
上松町	33	0	0	1	1	0	0	0	0	7	12	1	0	0
南木曽町	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	9	0
木曽町	42	4	4	19	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
木祖村	8	0	2	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
王滝村	8	0	0	2	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0
大桑村	18	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	65	2
	篠崎医院	水野歯科医院	坂下診療所	近藤クリニック	中津川市民病院	稲垣ヶ原病院	木曽町	上松町	中津川市	松本・塩尻方面	伊那方面	飯田方面	その他	合計
木曽郡	40	1	38	5	7	3	5	1	8	15	1	1	6	390
上松町	1	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	0	61
南木曽町	34	0	32	5	6	0	0	0	7	0	0	0	4	101
木曽町	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4	0	0	2	82
木祖村	0	0	0	0	0	2	0	0	0	6	0	1	0	26
王滝村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
大桑村	5	1	6	0	1	0	1	0	1	2	1	0	0	106

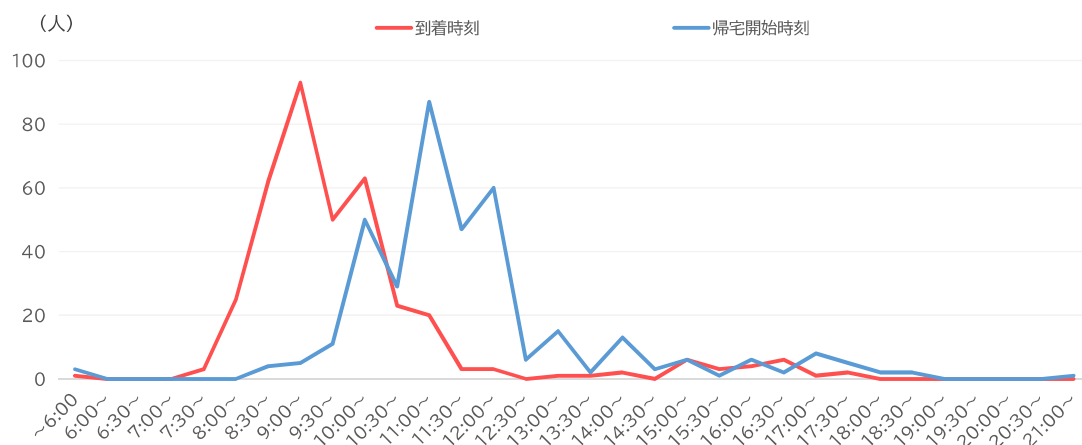
木曽郡 もっとも多い通院先
 南木曽町 2番目に多い通院先
 大桑村 3番目に多い通院先

④移動時間帯（施設に到着したい時刻・出発したい時刻/ 交通不便者のみ）

○行きについては、「8:30~9:00」がピークとなっており、その後も午前中の間、一定の需要があることがわかる。

○帰りについては 10 時頃から始まり昼過ぎにかけて需要がある。医療機関への滞在時間は 2 時間程度となっている。

○午後の時間帯については、交通不便者の通院ニーズはほとんどないことがわかる。



(3) 買い物の状況

①買い物先（交通不便者のみ）

- 木曽郡全体では「Aコープきそ」「マルトシ・アメリカンドラッグ」「イオン木曽福島店」への移動が多い。
- 町村別にみると「Aコープきそ」が最も多いのは、上松町、木曽町、王滝村となっている。同じく木曽福島市街地にある「イオン木曽福島店」は木曽町内からの利用としては「Aコープ木曽」と同程度あるものの、他町村からの利用は多くないのが特徴的といえる。
- 「マルトシ・アメリカンドラッグ」も大桑村内の利用に特化しており、他の町村からの利用はほとんどみられない。
- 南木曽町は、町内の「丸正金沢屋」がもっとも多いが、「ショッピングセンターサラ」「ルビットタウン中津川」など中津川市へ移動も目立つ。

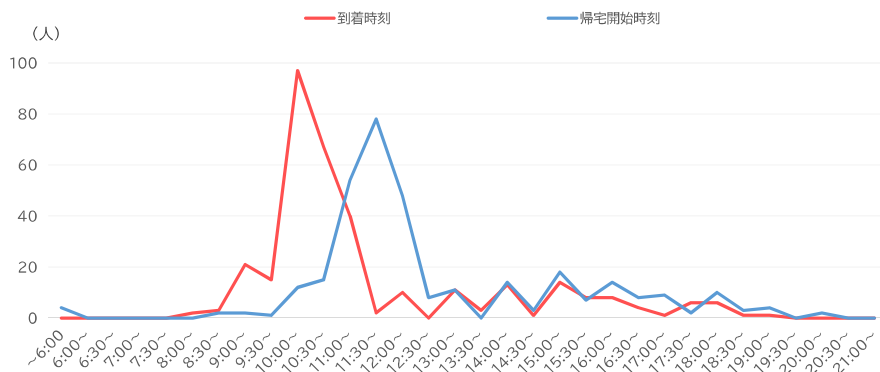
(単位:人)

	イオン木曽 福島店	Aコープき そ店	道の駅 日 義木曽駒高 原	スーパー マーケット まると	奥田商店	駅前市場	スーパー おおさわ	マルトシ・ア メリカンド ラッグ	マルキョウ スズキ	木楽舎(道 の駅大桑)	はなの木薬 局	サンショッ プインカワ	丸正金沢屋
木曽郡	59	104	1	4	2	17	16	85	2	1	1	9	33
上松町	10	37	0	0	0	17	15	2	0	0	0	0	0
南木曽町	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	9	32
木曽町	43	47	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木祖村	4	5	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
王滝村	1	9	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
大桑村	1	6	0	0	0	0	1	80	2	1	1	0	1
	ショッピング センターサラ	パロー中津 川東店	ルビットタウ ン中津川	木曽町	木祖村	王滝村	上松町	大桑村	中津川市	松本・塩尻 方面	伊那方面	その他	合計
木曽郡	16	3	15	11	1	1	12	2	15	14	3	6	433
上松町	0	0	0	3	0	0	12	0	0	1	1	1	99
南木曽町	16	3	11	0	0	0	0	0	14	2	0	0	90
木曽町	0	0	0	7	0	0	0	0	0	4	0	1	103
木祖村	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	2	3	25
王滝村	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	14
大桑村	0	0	4	0	0	0	0	2	1	1	0	1	102

■ もっとも多い買物先
 ■ 2番目に多い買物先
 ■ 3番目に多い買物先

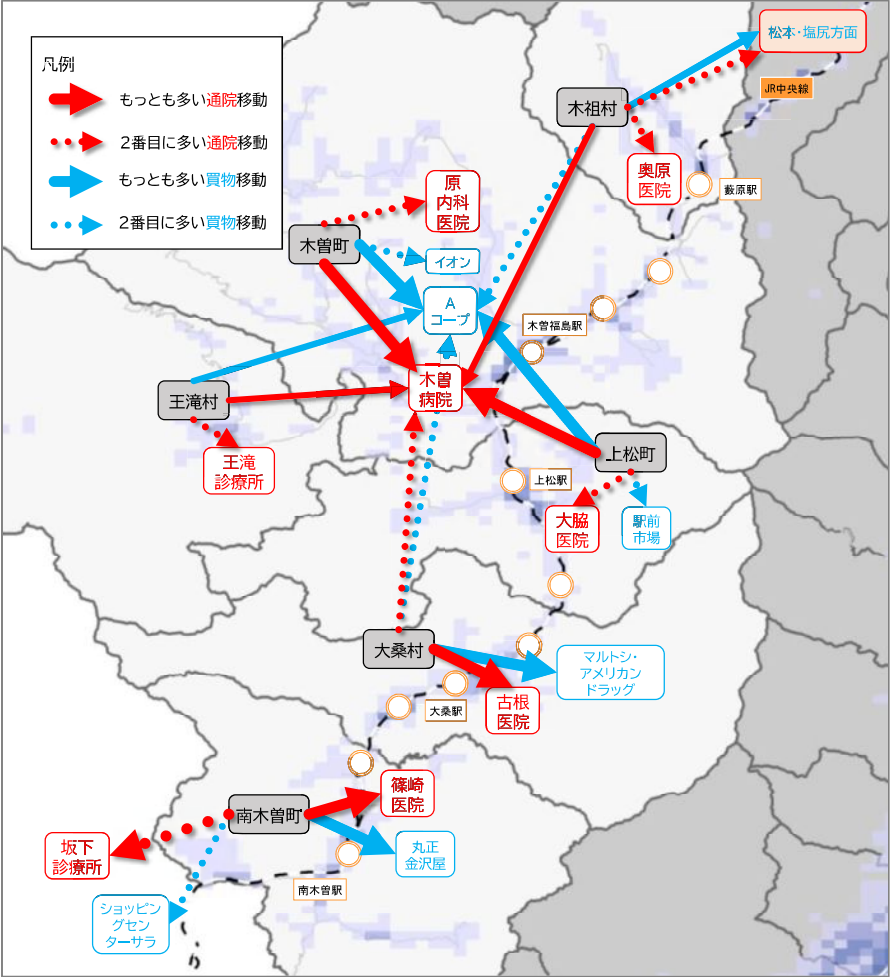
②移動時間帯（施設に到着したい時刻・出発したい時刻/交通不便者のみ）

- 行きについては、「10:00～10:30」が強いピークで、午前中を中心に需要が大きく、その後も夕方にかけて少ないながらも移動が続くことがわかる。
- 帰りについては、行きの移動の1時間半から2時間後程度となっている。
- 全体として午前中に移動が集中していることがわかる。



(4) 通院・買物の流動パターン

- 14～16p に示した交通不便者の移動パターンを図化した。
- 郡の中心である木曽福島方面への移動については、大桑村までは比較的多くみられるものの、南木曽町については少なく、中津川方面に向いていることがわかる。



- 移動ニーズがあるが移動手段がないために行くことができない方面としては、郡内々の移動よりも郡外への移動が多く回答されている。
- もっとも多いのは「伊那市」で、南木曽町以外の 5 町村で 2 番目以内の回答となっている。木曽町、木祖村でとくに多くなっている。
- 中津川市についても、南木曽町、大桑村で非常に高くなっている。

	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	松本市	塩尻市	山形村	伊那市	飯田市	阿智村	中津川市
上松町	1	0	4	0	0	2	2	3	0	9	0	0	0
南木曽町	1	5	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0	30
木曽町	0	0	1	1	0	0	3	8	1	22	0	0	0
木祖村	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	2
王滝村	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
大桑村	0	1	1	0	0	0	3	3	0	6	0	2	21

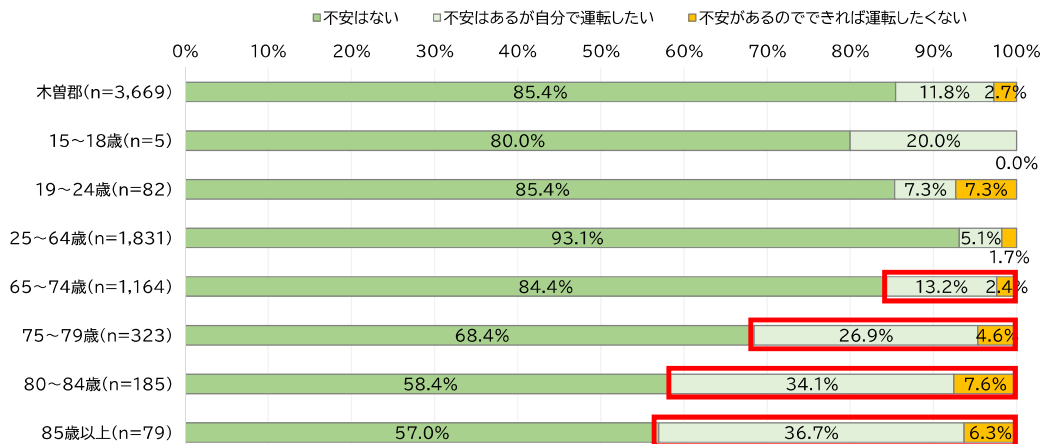
自町村内 上位2箇所（自町村以外）

(5) 移動環境や交通に対する意識

①運転に対する不安（免許保有者）

○免許保有者に運転に対する不安をたずねたところ、**65 歳以上**で不安が大きく上昇していることがわかる。とくに **75 歳**を超える **30%**を超え、**85 歳以上**では半数近くに達する。

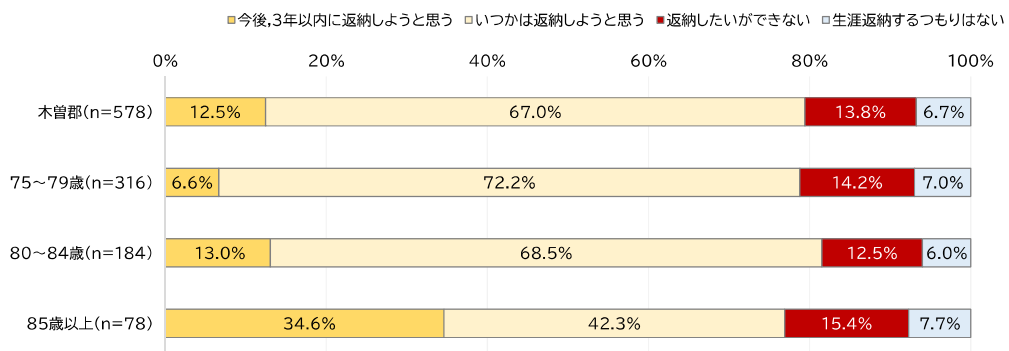
○しかし、「不安はある」ものの、「自分で運転したい」という比率が高く、自動車への依存が高いことがうかがえる。



②免許返納の意向（75 歳以上の免許保有者）

○回答者全体としては、「3 年以内に返納しようと思う」「いつかは返納しようと思う」をあわせて **79.5%**と高いが、「返納したいができない」が **13.8%**、「生涯返納するつもりはない」が **6.7%**となっている。

○年代別にみると、年代があがるにつれて「3 年以内に返納しようと思う」が上昇している。しかし、「返納したいができない」「生涯返納するつもりはない」の割合はほぼ変わらない。

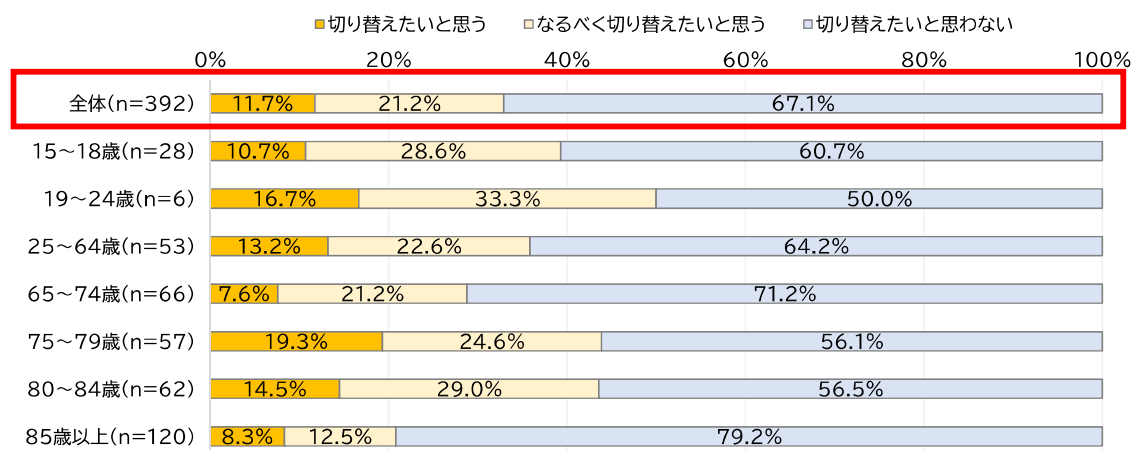


③家族送迎からの転換意向

【送迎を受けている側】

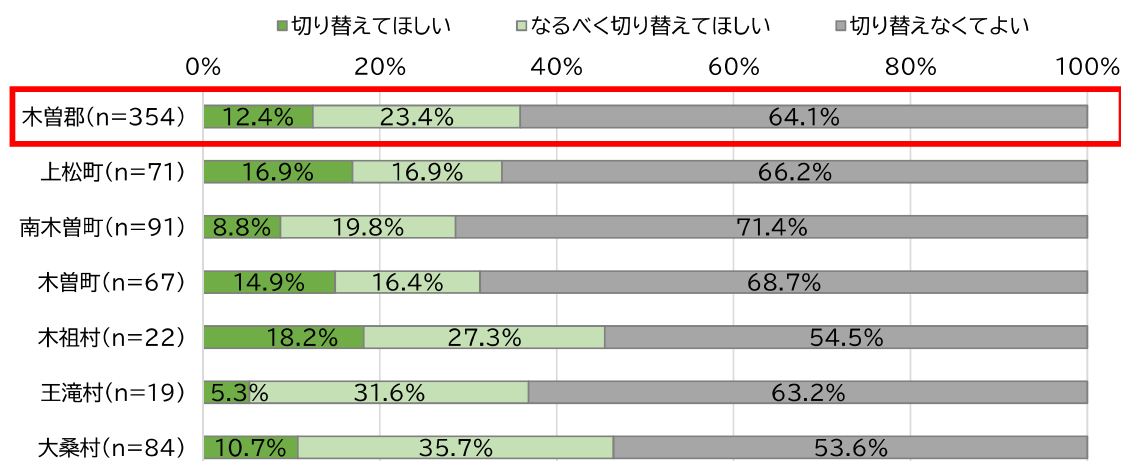
○家族送迎を利用している人に別の交通手段に切り替えたいと思うかをたずねたところ、「切り替えたいと思わない」がすべての年代でもっとも多くなっている。

○年代別にみると、80～84歳では「なるべく切り替えたいと思う」が29%と各年代を通じても高くなっているが、85歳以上になると、この比率が12.5%と急激に落ちることがわかる。



【送迎をしている側】

○逆に、送迎している家族の側に、別の交通手段に切り替えてほしいかをたずねたところ、全体としては送迎を受けている側とほぼ同様の回答となった。



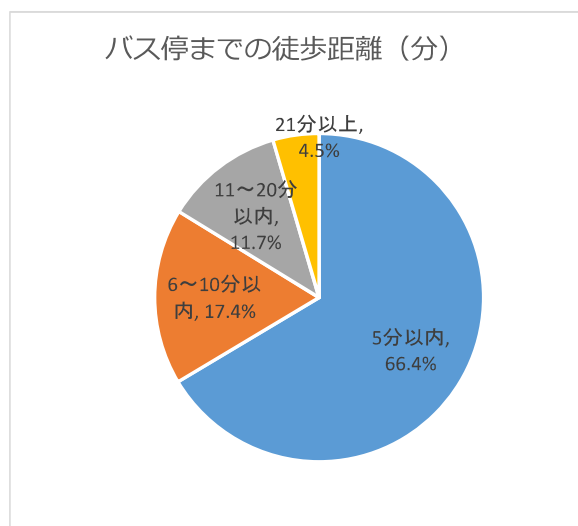
2-2 公共交通利用者の状況

(1) 移動・交通に関する環境

① バス停までの徒歩距離

○バス停までの距離は「5分以内」が最も多く 66.4%、「10分以内」までの累計で 83.8%となっている。一方で、「21分以上」という回答も 4.5%ある。

○実際のバス利用者からの回答であり、大半はバス停からのアクセスが良いことがわかるが、アクセスに難がありながらも利用している人が一定数いることもわかる。



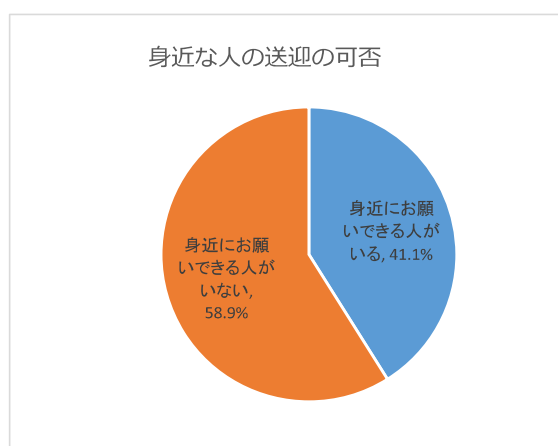
項目	回答数	比率
5分以内	176	66.4%
6～10分以内	46	17.4%
11～20分以内	31	11.7%
21分以上	12	4.5%
無回答	23	—
合計	288	100.0%

※比率は無回答を除いたもの

② 身近な人の送迎の可否

○家族や知人などで、自家用車での送迎を頼める人が「いない」という回答が 58.9%。

○公共交通利用者の多くが、公共交通に頼らざるを得ない状況にあることが明らかとなった。

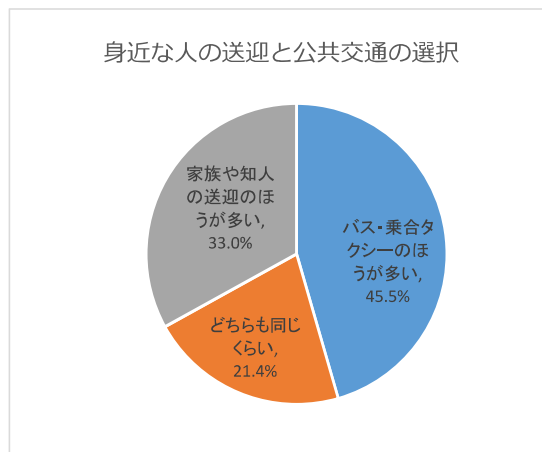


項目	回答数	比率
身近にお願いできる人がいる	115	41.1%
身近にお願いできる人がいない	165	58.9%
無回答	8	—
合計	288	100.0%

※比率は無回答を除いたもの

③身近な人の送迎と公共交通利用の選択

- 送迎してくれる人がいても、公共交通利用のほうが多いという回答が 45.5%で多くなった。
- 送迎者とのタイミングが合わなかったり、遠慮があったりして、公共交通を利用しているという実態もうかがえる。



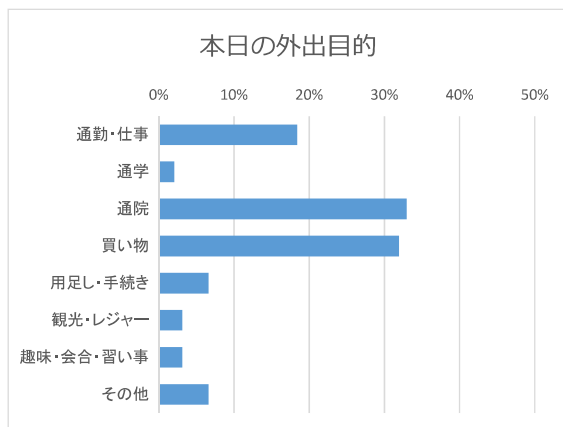
項目	回答数	比率
バス・乗合タクシーのほうが多い	51	45.5%
どちらも同じくらい	24	21.4%
家族や知人の送迎のほうが多い	37	33.0%
無回答	3	—
合計	115	100.0%

※回答対象は送迎可能な環境にある115人

※比率は無回答を除いたもの

(2) 公共交通の利用目的

- 「通院」が最も多く 33.0%、「買い物」もほぼ同数の 31.9%で、この2つが大きくなっている。
- 「通勤・仕事」も 18.4%と比較的多いが、これは調査時に JRが豪雨災害で不通となっていたことによるもので、通常はここまで多くないとみられる。
- 「通学」が少ないのは、高校生に関しては別途アンケート調査を行ったことを受けて、回答対象とはしていないことによるものである。



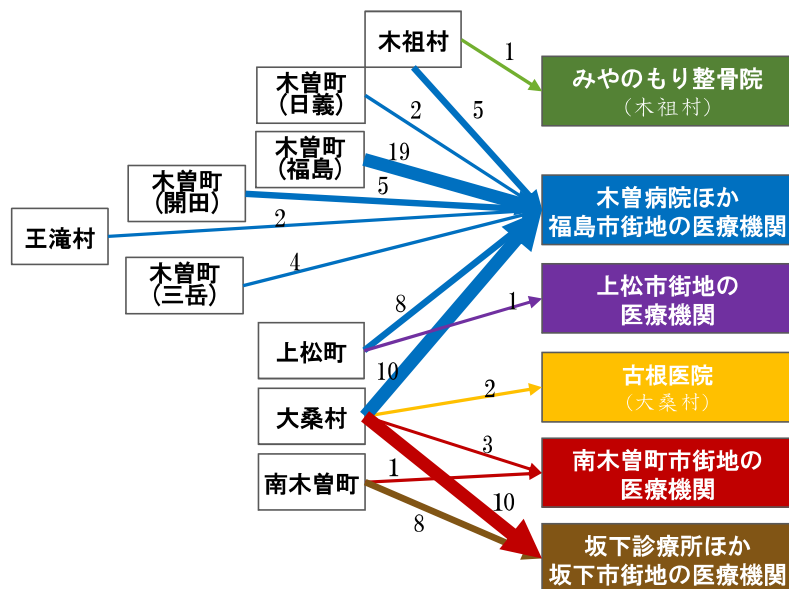
項目	回答数	比率
通勤・仕事	53	18.4%
通学	6	2.1%
通院	95	33.0%
買い物	92	31.9%
用足し・手続き	19	6.6%
観光・レジャー	9	3.1%
趣味・会合・習い事	9	3.1%
その他	19	6.6%
合計	288	—

※複数回答のため合計は100%にならない

(3) 公共交通による主な移動パターン

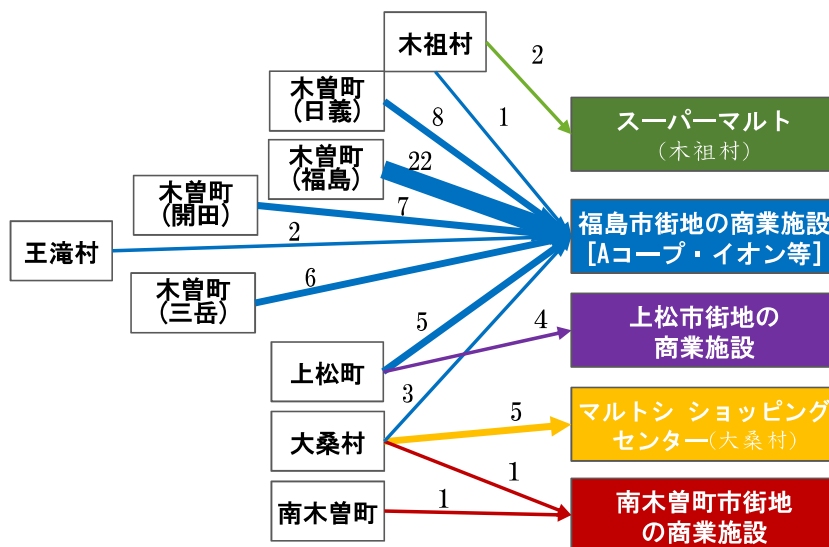
①通院

- 木曽福島の「木曽病院」と中津川市坂下の「坂下診療所」が中心的な医療機関となっている。
- 木曽病院は主に木曽地域北中部の医療を、坂下診療所は主に木曽地域南部の医療を担っている。
- 大桑村が両施設の通院移動の分かれ目になっており、ほぼ同数の移動がある。南木曽から木曽病院への通院はみられず、上松以北から坂下診療所への通院はみられない。



②買い物

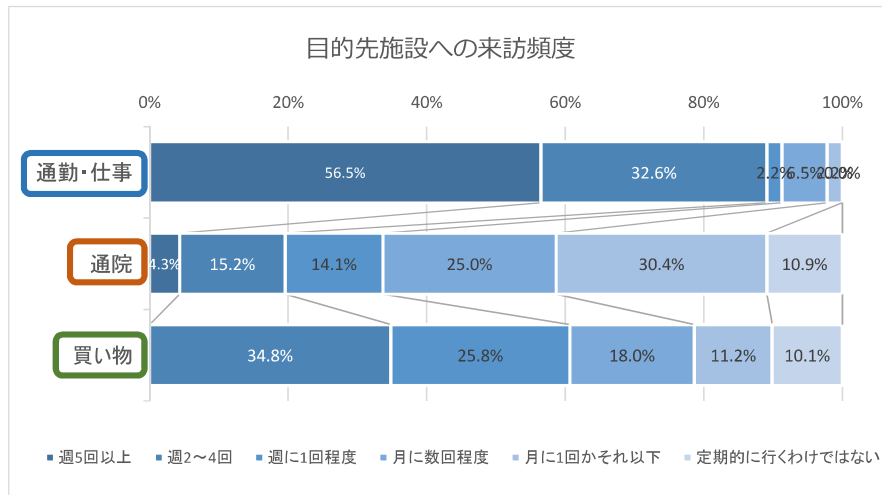
- 木曽福島市街地のスーパー（Aコープ、イオン等）に対しては、郡全体からの利用がみられる。
- ただし、郡全体が木曽福島市街地のスーパーに強く依存しているということでもなく、木祖村についてはマルト、大桑村についてはマルトシの利用のほうが多い。



③移動頻度

○移動頻度は目的によって大きく異なる。

○通勤・仕事については、「週 5 回以上」が 56.5%と大半を占めるが、通院では「月 1 回からそれ以下」が最も多く 30.4%、買い物では「週 2～4 回」が 34.8%と最も多くなっている。



④往復利用の乗継の有無

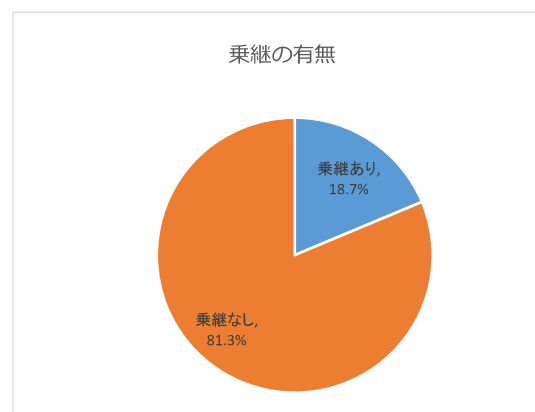
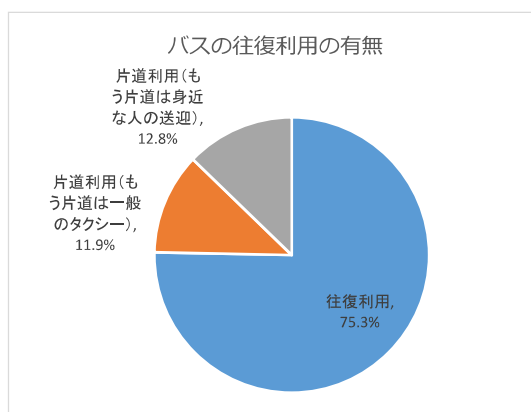
○利用者のうち、約 75%が往復ともにバス・乗合タクシーの利用となっている。

○残りの 25%については、片道が一般のタクシーというものと、身近な人の送迎がほぼ半数ずつとなっている。

○バスの便数が少ないため、時間をあわせられる行きはバスが利用できるが、帰路の時間が流動的な通院については、帰りはタクシーになるというケースも多いものとみられる。

○乗継については 80%強が乗継なしとなっている。

○残りの 19%は途中での乗継があると回答している。具体的なケースで目立つのは木曽町の交通システムで、支所などの結節点での乗継となっているが、三岳から上松方面など、接続を見込んでいない方面同士の乗継などもみられた。



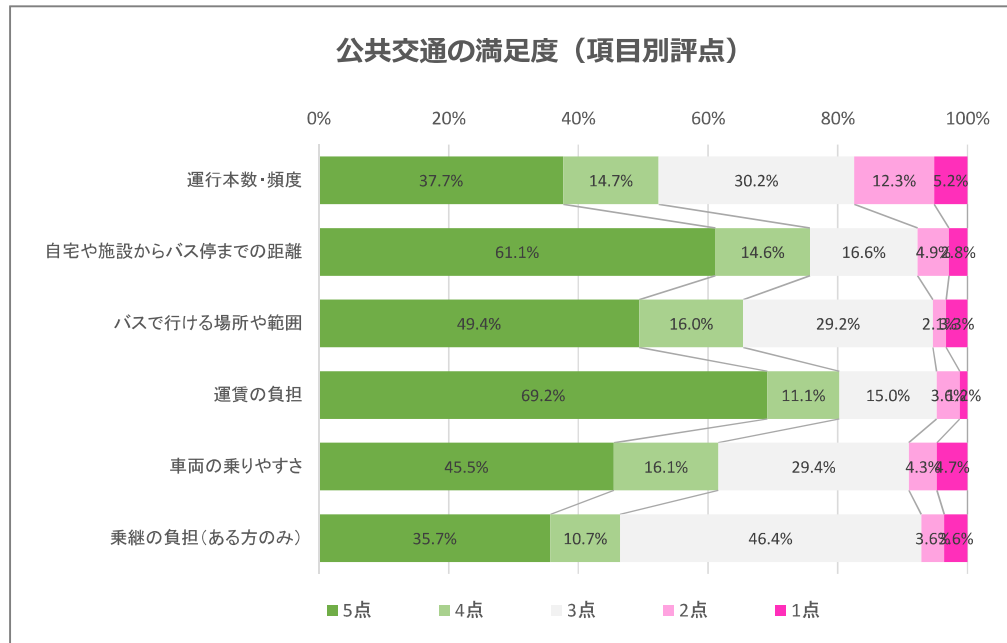
(4) 公共交通に対する満足度

○最も満足度の高かった項目は「運賃の負担」で、満足度 80.2%（平均評点 4.4）となった。

○これについて、「自宅や施設からバス停までの距離」「バスで行ける場所や範囲」などが高い評点となっている。

○全項目についての平均での満足度は 67.1%、評点は 4.1 となった。

※「満足度」= 5 段階評点の 5 と 4 を合計した比率と定義づける

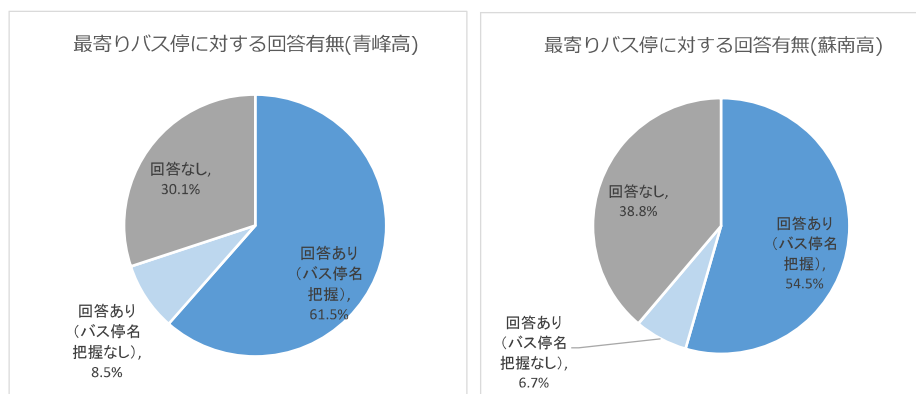


2-3 高校生の通学の現状

(1) 最寄りバス停に対する認知

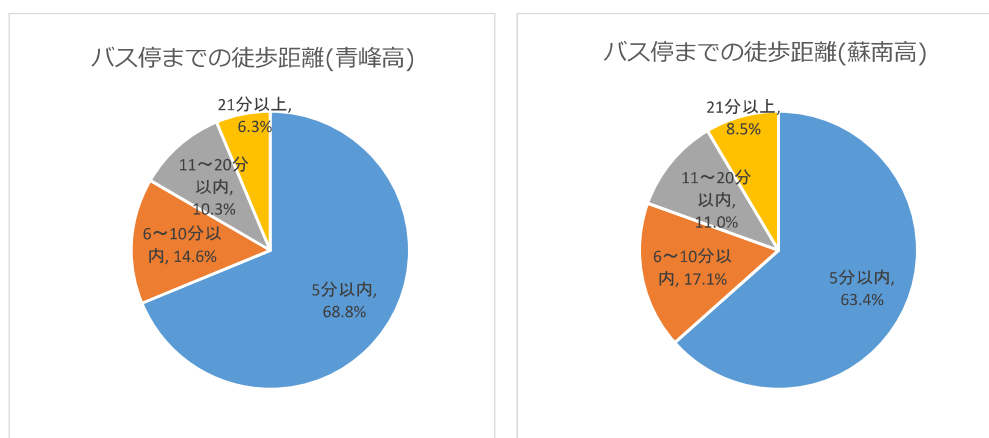
①バス停の認知の有無

- 自宅の最寄りバス停名と徒歩距離について把握している生徒は、木曽青峰高校で 61.5%、蘇南高校で 54.5%となっている。
- バス停名までは分からないが、バス停があることを把握できている生徒まで含めると、木曽青峰高校で 70%、蘇南高校で 61.2%となる。
- これ以外のものについては、バス停が近くにあっても認識していない、あるいは把握できるほどの近隣にはバス停がないものと考えられる。



②最寄りバス停までの徒歩距離

- 「5分以内」が最も多く、木曽青峰高校で 68.8%、蘇南高校で 63.4%となっている。
- 「10分以内」まであわせると、木曽青峰高校が 83.4%、蘇南高校が 80.5%と非常に高い割合となり、距離的には十分にバスの利用可能圏内に暮らしている生徒が多いことがわかる。

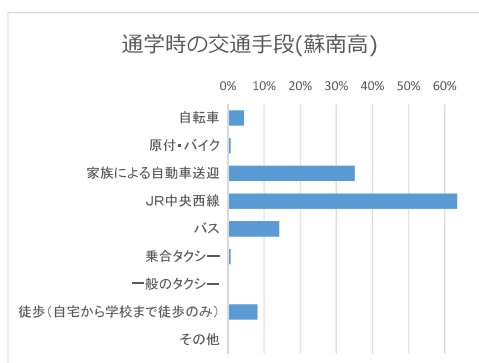
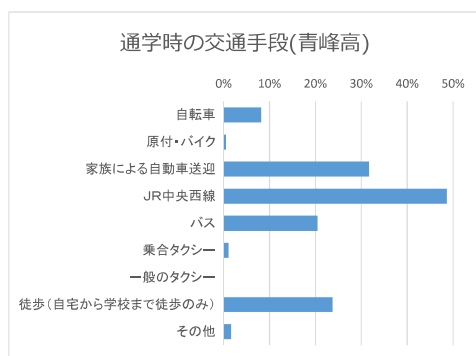


(2) 通学方法

【両校の公共交通アクセスの状況】

- 木曽青峰高校はJR木曽福島駅から、蘇南高校はJR南木曽駅からともに徒歩15分程度の距離にあり、鉄道駅へのアクセスは良好とまではいえないものの、悪くはない立地である。
- 木曽町内、上松町内からは木曽福島駅に向けてコミュニティバスが運行しており、通学時間についても対応している。また、木曽福島駅からは木曽福島市街地の循環バスも運行されており、木曽青峰高校前にはバス停もあり、登下校時間に合わせた運行もされている。
- 蘇南高校についても、南木曽町内から南木曽駅に向けては南木曽町のコミュニティバスが運行されているが、南木曽駅から蘇南高校までのバスはない。

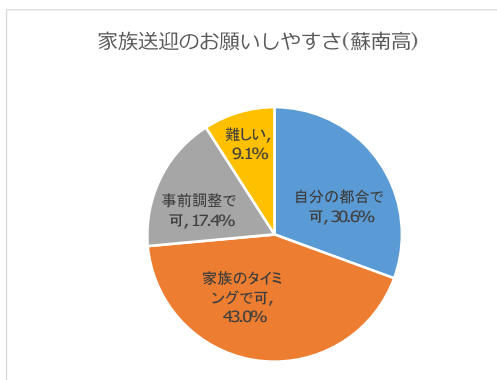
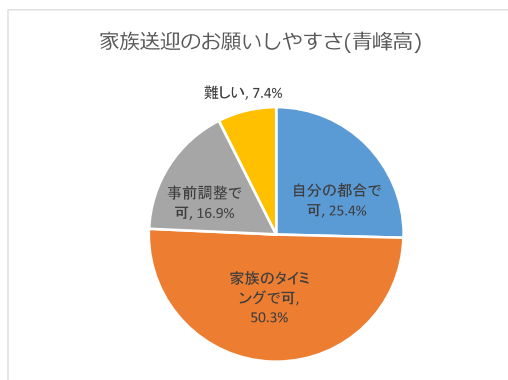
- 通学方法としては、両校ともにJR中央西線が最も多く、木曽青峰高校で48.6%、蘇南高校では63.4%と非常に高くなっている。
- コミュニティバスと乗合タクシーを合わせた利用率は、木曽青峰高校で21.6%、蘇南高校では14.9%と低くなっている。
- 家族による自動車送迎は、木曽青峰高校では31.7%、蘇南高校では35.1%で、バス・乗合タクシーの利用率を大きく上回っている。



(3) 家族送迎の状況

①家族へのお願いしやすさ

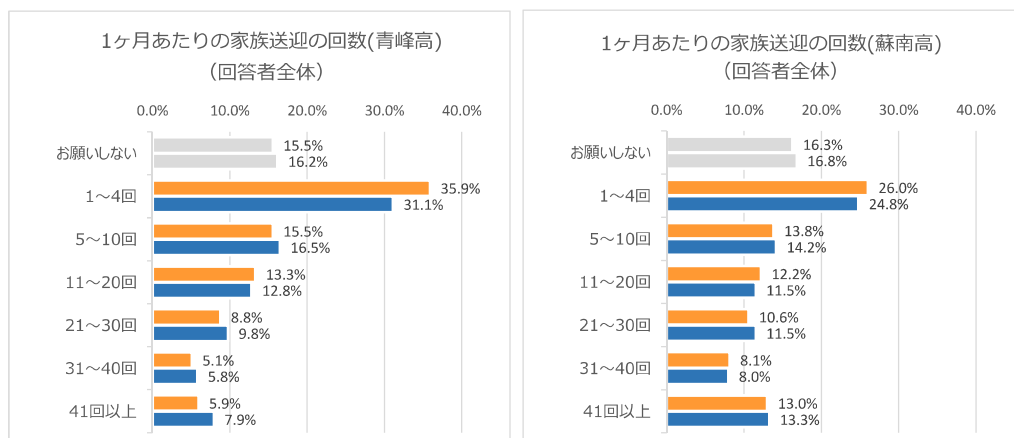
- 家族送迎を「お願いすることが難しい」という回答は、木曽青峰高校で7.4%、蘇南高校で9.1%とともに1割未満である。
- 残りの9割以上の生徒は、お願いしやすさの程度はあるにせよ、「お願いすればできる」という状況にある。
- ただし、家族送迎がお願いできないという層が一定数いることは重要であり、徒歩や自転車だけの通学ができない場合には、公共交通等での輸送、あるいはその他の支援策が必要であることがうかがえる。



②家族送迎の頻度

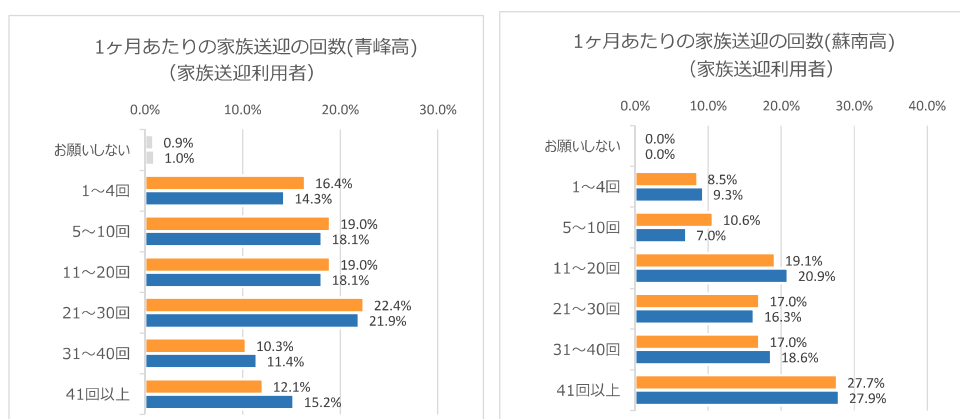
【全生徒】

- 登下校の片道を1回としたとき、1ヶ月あたりに「1～4回」が最も多く、木曽青峰高校で夏 35.9%、冬 31.1%、蘇南高校では夏 26.0%、冬 24.8%となった。
- 「1回もお願いしない」という生徒は木曽青峰高校で 15～16%、蘇南高校では 16～17%程度いることが把握できた。なお、夏冬に関しては、それほど大きな差は見られなかった。



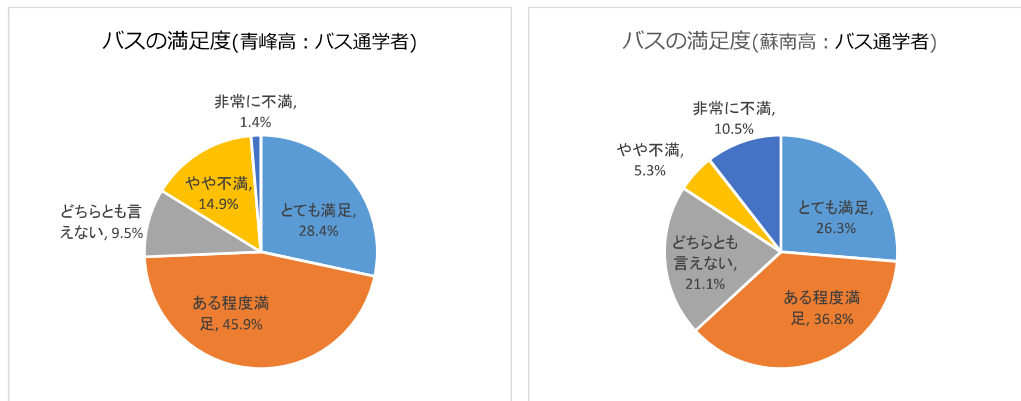
【家族送迎を通常の通学方法にしている生徒の状況】

- 蘇南高校では「41回以上」が夏冬ともに 27%台最も多くなった。これは即ち、ほぼ毎日かつ往復というものであり、この通学方法に固定されているということになる。
- 木曽青峰高校では「21～30回」が夏 12%～冬 15%で最も多くなった。これは月の半分程度が家族送迎という頻度となる。
- いずれにしても両校ともに、「20回以下」が半数程度はおり、毎日の往復すべてが家族送迎というわけではないことがわかる。つまり、行き帰りのどちらか片道、あるいは部活で遅いときなどに家族送迎を利用しており、それ以外はその他の通学方法が確立できているということがうかがえる。



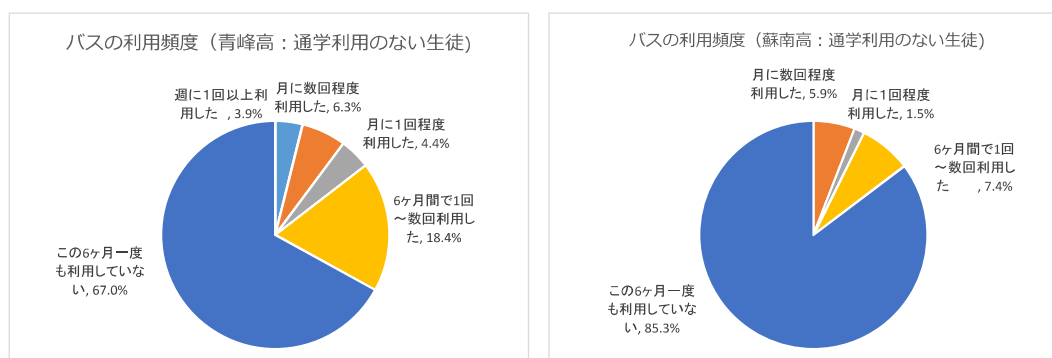
(4) バスの満足度（通学時にバスを利用している生徒）

- 通学時にバスを利用している生徒にバスの満足度を尋ねたところ、両校ともに最も高かったのは「ある程度満足」で、木曽青峰高校で 45.9%、蘇南高校で 36.8%となった。「満足」と「ある程度満足」をあわせた比率は、木曽青峰高校で 72.6%、蘇南高校で 57.7%となった。
- 「非常に不満」という回答については、木曽青峰高校では 1.4%だったのに対して、蘇南高校では 10.5%と高くなっている。



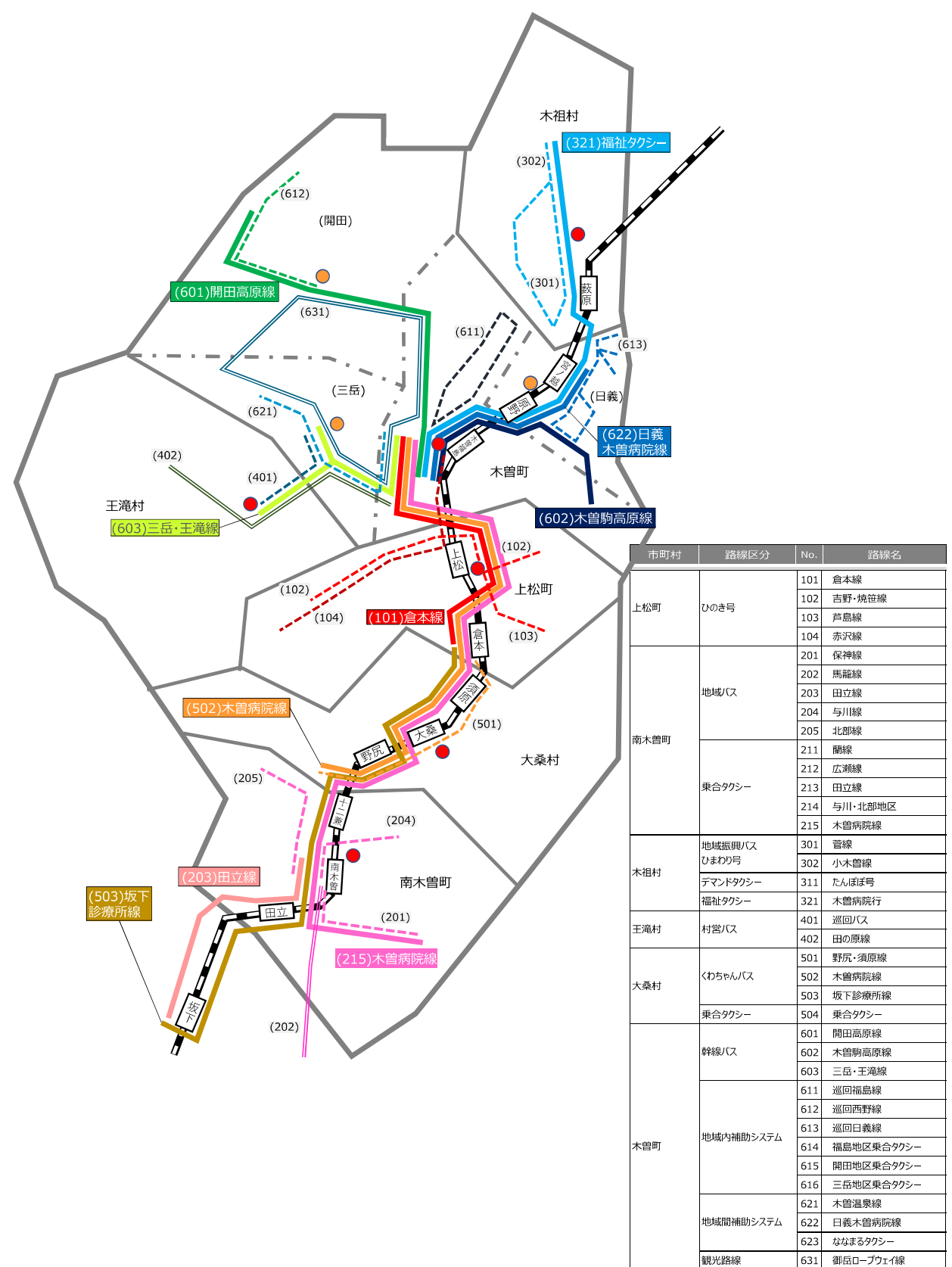
(5) バスの利用頻度（通学時にバスを利用していない生徒）

- 普段はバスを使わないものの例外的に通学にバスを利用したり、通学以外にも日常の外出や遠出などの際にバスを利用したりすることがあるかどうかをたずねた。
- 両校ともに「この6ヶ月間一度もない」という生徒が最も多く、木曽青峰高校で 67.0%、蘇南高校では 85.3%となった。
- 残りの生徒は「何度かは利用している」状況にあるが、この比率は木曽青峰高校で 33.0%、蘇南高校で 14.7%となっており、木曽青峰高校のほうがかなり大きい。
- この回答は学校の登下校のためのバスに限定してたずねたものではないため、一概には言えないが、木曽青峰高校の生徒の居住エリア（木曽町、上松町中心）のほうが、蘇南高校の生徒の居住エリア（南木曽、中津川、大桑中心）のほうがバスの利便性の高さや住民の利用習慣などがあることがうかがえる。



3. 地域の公共交通の状況

3-1 運行路線一覽



3-2 各路線の運行状況等

(1) 運行区間及び路線距離

事業者・路線			経由市町村	運行事業者 (委託先)	上 松 町	南 木 曽 町	木 祖 村	王 滝 村	大 桑 村	木 曽 町	中 津 川 市	合併 跨 ぎ	キロ程 (km)
鉄道													
JR線	001	中央西線	JR東海		○	○	○		○	○	○		
コミュニティバス													
上松町	ひのき号	101	倉本線	おんたけ交通	●					○			18.0
		102	吉野・焼笹線	おんたけタクシー	●								13.3
		103	芦島線	おんたけタクシー	●								13.3
		104	赤沢線	おんたけ交通	●					○			23.2
南木曽町	地域バス	201	保神線	おんたけ交通		●							15.4
		202	馬籠線	おんたけ交通		●				○			15.7
		203	田立線	南木曽観光タクシー		●				○			10.6
		204	与川線	南木曽観光タクシー		●							12.9
		205	北部線	南木曽観光タクシー		●							11.0
	乗合タクシー	211	蘭線	南木曽観光タクシー		●							-
		212	広瀬線	南木曽観光タクシー		●							-
		213	田立線	南木曽観光タクシー		●							-
		214	与川・北部地区	南木曽観光タクシー		●							-
		215	木曽病院線	南木曽観光タクシー		●							41.2
木祖村	地域振興バス ひまわり号	301	菅線	おんたけ交通			●						14.7
		302	小木曽線	おんたけ交通			●						9.0
	デマンドタクシー	311	たんぼぼ号	やぶはらタクシー			●						-
	福祉タクシー	321	木曽病院行	やぶはらタクシー			●						22.9
王滝村	村営バス	401	巡回バス	村直営				●		○			25.2
		402	田の原線	おんたけ交通				●		○	○		41.4
大桑村	くわちゃんバス	501	野尻・須原線	おんたけ交通	△				●				22.9
		502	木曽病院線	おんたけ交通	○				●	○			36.1
		503	坂下診療所線	おんたけ交通					●		○		33.3
	乗合タクシー	504	乗合タクシー	南木曽観光タクシー					●		○		-
木曽町	幹線バス	601	開田高原線	おんたけ交通						●		★(福島・開田)	33.5
		602	木曽駒高原線	おんたけ交通						●		★(福島・日義)	9.3
		603	三岳・王滝線	おんたけ交通				○		●		★(福島・三岳)	20.9
	地域内補助システム	611	巡回福島線	おんたけタクシー						●			15.0
		612	巡回西野線	おんたけ交通						●			10.6
		613	巡回日義線	おんたけタクシー									14.9
		614	福島地区乗合タクシー	木曽交通						●			-
		615	開田地区乗合タクシー	おんたけタクシー						●			-
		616	三岳地区乗合タクシー	おんたけタクシー						●			-
		621	木曽温泉線	おんたけ交通						●		★(福島・三岳)	22.0
	地域間補助システム	622	日義木曽病院線	おんたけ交通						●		★(福島・日義)	10.2
		623	ななまるタクシー	おんたけタクシー/木曽交通						●		★(旧4町村)	-
	観光路線	631	御岳ロープウェイ線	おんたけ交通						●		★(福島・開田・三岳)	36.1

●=コミバスにおける主管市町村(窓口)

○=路線が経由する市町村

(2) 運行本数・利用者数等

(06)木曽地域振興局管内											
事業者・路線		経由市町村	使用車両	平日 便数 (往復数)	土休日 便数 (往復数)	運賃 (大人) 片道 初乗り	運賃 (大人) 片道 最長区間	利用者数 (R4)	利用者数 増減率 (H30→R4)	1便あたり 利用人数	備考
鉄道											
JR線	001	中央西線		25.5	25.5						普通列車は12往復
コミュニティバス											
上松町	ひのき号	101 倉本線	中型バス(9m)	9	6	200	均一	28,582	-18%	4.9	
		102 吉野・焼笹線	小型バス (7m,5.5m)	6.5	4.5	200	均一	1,806	-12%	0.4	
		103 芦島線	小型バス (7m,5.5m)	3	0	200	均一	1,806	-12%	1.2	平日月金のみ運行
		104 赤沢線	中型バス(9m)	3	4	1,200	1,500	1,518	-55%	0.6	季節運行
南木曽町	地域バス	201 保神線	中型バス(9m)	5	5	300	均一	15,246	-59%	4.2	
		202 馬籠線	中型バス(9m)	4	4	300	800	15,620	-58%	5.3	観光ピーク期は1往復増便
		203 田辺線	マイクロバス	2	2	300	均一	1,840	-44%	1.3	
		204 与川線	タクシー (ジャンボ)	1.5	0	300	均一	24	-88%		
	乗合タクシー	205 北部線	タクシー (セダン)	1.5	0	300	均一	18	350%		
		211 蘭線	タクシー (セダン)	1.5※	0	300	均一	0			
		212 広瀬線	タクシー (セダン)	1.5※	0	300	均一	12	500%		
		213 田立線	タクシー (セダン)	1※	0	300	均一	128	-23%		
		214 与川・北部地区	タクシー (セダン)	－	0	500	均一	243			
		215 木曽病院線	タクシー (ジャンボ・セダン)	1※	1※	300	600	349			
木曽村	地域振興バス ひまわり号	301 菅線	小型バス	5.5	2	100	均一	3,083	-34%	1.0	観光ピーク期の休日は1往復増便
		302 小木曽線	大型・小型バス	6.5	2	100	500	6,078	-36%	1.6	
	デマンドタクシー	311 たんぽぽ号	タクシー (セダン)	－	－	100	均一				
	福祉タクシー	321 木曽病院行	タクシー (ジャンボ)	2.5※	0	400	均一	1,541	-18%		
玉滝村	村営バス	401 巡回バス	ミニバン	2	0	100	均一	1,069	-18%	1.1	
		402 田の原線	中型バス(9m)	3	0	200	1,500	-			季節運行 (お盆期間は毎日)
大桑村	くわちゃんバス	501 野尻・須原線	マイクロバス	2	0	200	均一	2,500	13%	2.5	
		502 木曽病院線	マイクロバス	2.5	0	200	500	3,656	-17%	2.9	
		503 坂下診療所線	マイクロバス	2	0	200	500	3,556	9%	3.6	
	乗合タクシー	504 乗合タクシー	タクシー (セダン)	－	－	300	均一	5,327	-34%		土曜日運行
木曽町	幹線バス	601 開田高原線	中型バス(9m)	10.5	7	200	均一	59,288	-14%	8.6	
		602 木曽駒高原線	中型バス(9m)	10.5	5	200	均一	23,523	-6%	3.7	
		603 三岳・玉滝線	中型バス(9m)	10.5	6	200	均一	24,487	-23%	3.7	
	地域内補助システム	611 巡回福島線	マイクロバス	8	4	100	均一	18,215	-22%	3.7	
		612 巡回西野線	中型バス(9m)	5	4	100	均一	4,604	-16%	1.3	
		613 巡回日義線	中型バス(9m)	6	5	100	均一	5,444	1%	1.3	
		614 福島地区乗合タクシー	タクシー (セダン)	－	－	100	均一	1,288	22%		定期便タクシー兼用(平日5往復)
		615 開田地区乗合タクシー	タクシー (ジャンボ)	－	－	100	均一	1,610	-16%		定期便タクシー兼用(平日5往復)
		616 三岳地区乗合タクシー	タクシー (ジャンボ)	－	－	100	均一	2,912	-47%		
	地域間補助システム	621 木曽温泉線	中型バス(9m)	2.5	0	200	均一	3,051	-15%	2.4	
		622 日義木曽病院線	中型バス(9m)	0.5	0	200	均一	799	3%	3.2	
		623 ななまきタクシー	タクシー (セダン)	－	－	700	均一	1,755	268%		伸び率はR2からのもの
	観光路線	631 御居ロープウェイ線	中型バス(9m)	3	4	200	1,500	2,179	-3%	0.9	季節運行(便数は夏ダイヤ)

4. 上位計画・関連計画の状況

上位計画、関連計画について、地域公共交通に関する部分を要約したものを以下に記した。

4-1 広域的な計画

(1) 長野県

①総合計画

計画名称等	しあわせ信州創造プラン 3.0
検討組織	長野県
目標年次	概ね 2035 年の長野県の将来像を展望し、これを実現するための今後 5 年間（2023～2027 年度）の行動計画
方針・目標	豊かな自然と歴史・文化に育まれた「木曽らしい」暮らしを維持する地域づくり
取組施策	4 人口減少下における持続可能な地域づくり 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、生活・産業活動基盤の維持、確保を図ります。 ●医療 ・木曽病院の機能を堅持するため、信州大学や信州木曽看護専門学校等との連携による医療従事者の確保に引き続き努めるとともに、木曽圏域内外の医療連携を進めつつ、遠隔診療の導入や医療人材の広域的確保等の取組を支援し、質の高い医療提供体制を確保 ●道路、交通 ・国道 19 号の整備及び安全対策の促進 ・東西の交流を支える国道 256 号、国道 361 号の整備を推進 ・生活路線、観光誘客、災害時の迂回路等多くの機能を持つ木曽川右岸道路、姥神峠道路の整備を推進 ・「木曽地域公共交通活性化協議会」における地域公共交通についての対策を促進

②都市計画マスタープラン

計画名称等	木曽圏域 都市計画区域マスタープラン
検討組織	長野県
目標年次	都市計画の基本的な方向 令和 22 年 都市施設などの整備目標 令和 12 年（中間年 令和 7 年）
方針・目標	(3) 都市づくりの目標 ⑤ 生活・産業・観光を支える交通体系の強化 （中略）交通渋滞の緩和や環境負荷低減のため、JR 中央本線及びバスの利便性を高める。また、生活や通院、観光二次交通として欠かせない地域公共バスの広域運行化や利便性の向上等を推進する。
取組施策	（中略） ・JR 中央本線の利用促進を図るとともに、交通結節機能の維持、強化を図る。市町村を主体に関係機関との連携のもと、路線バスの維持やコミュニティバスの充実等による安心・安全な地域公共交通の確保を図る。 ・効率的な交通体系の構築を目指し、主要な鉄道駅を中心に、駅前広場、駐車場、自転車駐車場、自転車走行空間の整備等を推進し、公共交通の利便性向上を図る。

4-2 各町村の計画

(1) 上松町

①総合計画

計画名称等	第6次上松町総合計画
検討組織	上松町 総合開発審議会並びに町議会
計画期間	基本構想 2021年度(令和3年度)～2030年度(令和12年度)までの12年間 基本計画 2018年度(令和3年度)～2025年度(令和7年度)
方針・目標	4. 公共交通 (2) 基本方向 誰もが自由に移動することのできる公共交通がある町を目指す。
取組施策	①効率的運行への対応 ○ 利用実態調査等を実施し、効率的運行に向けた検討 ○ デマンドバス、乗り合いタクシー等、多様な公共交通のあり方を検討 ②利用促進への取り組みの強化 ○ 利用料金の減免などにより、移動手段を必要としている方の利用促進 ○ 利用しやすい運行時間等を検討 ○ 駅利用者の利便の向上のため、J R 東海との委託業務契約を継続

②地域公共交通の再整備における基本方針

計画名称等	上松町 地域公共交通の再整備にかかる基本方針(案)
検討組織	上松町
計画期間	—
方針・目標	人口減少による利用者の減少に歯止めがきかない現在、不特定多数の利用を前提とした一定量の移動を担保するためのバス路線の運行は限界を迎えているのも事実です。今後一層過疎化が進むことを踏まえ、本町の公共交通は、一定量の移動が見込める町外への鉄道やバス路線を軸としながら、町内の移動は各地域からの少量の移動に必要に応じて利用できる移動手段を提供することで、無駄なコストを抑え、持続可能な公共交通に切り替えていく必要があります。
取組施策	○高齢者が利用しやすい運行形態の導入 ○木曽町への移動の確保 ○鉄道駅への接続手段の確保 ○少量輸送に適した効率的な運行形態の導入 ○スクール対応バス路線の確保 ○教育・福祉施策との連動

(2) 南木曽町

①総合計画

計画名称等	第 10 次南木曽町総合計画
検討組織	南木曽町総合計画審議会
計画期間	2018 年度（平成 30 年度）～2024 年度(令和 6 年度)までの 7 年間
方針・目標	2 公共交通機関の充実 （抜粋） 鉄道：ダイヤ改正による利便性の確保と充実への要望活動を継続的に取り組む。町との契約となった南木曽駅の窓口業務については、円滑な運営に努める。 バス：地域バス（幹線バス、通院バス、スクールバス、通園バス及び乗合タクシー）を運行し、利用者の拡大と利用促進、生活交通の確保を図る。 3 リニア中央新幹線への対応 県や木曽広域連合、郡内外の関係市町村や岐阜県・中津川市などと連携し、環境保全等の課題解決に向け、リニア中央新幹線対策協議会と共に取り組む。開業後の地域の将来を見据えたまちづくりについても、周辺自治体や地域とともに検討を進める。
取組施策	2 公共交通機関の充実 ・ J R 中央本線対策の推進 ・ 地域バス対策 3 リニア中央新幹線への対応 ・ リニア中央新幹線の建設整備への対応 ・ 地域づくりへの活用

②地域公共交通計画

計画名称等	南木曽町地域公共交通計画
検討組織	南木曽町地域公共交通協議会
計画期間	2022 年度（令和 4 年度）～2026 年度(令和 8 年度)までの 5 年間
方針・目標	（1）公共交通の位置づけと再整備の方針 （中略）自由に移動できる手段を持たない町民が自立して生活していくために、公共交通は自家用車同様なくてはならず、公共交通を主に交通弱者が生活を行っていくために必要な社会インフラとして位置づけ、再整備・維持を行う。 （2）公共交通が有すべき機能 （中略）自由に使える移動手段を有しない園児、小中高校生、高齢者が日常生活を送る上で必須となる地域内外への通学（通園）や通院、買物を行う際の足となる機能を公共交通に持たせる。生活移動と観光移動のベクトルが一致しているという強みも活かす。
取組施策	1) 公共交通網の再構築・運行 （ア）公共交通再編事業 （イ）路線維持・運行事業 2) 極少量移動などに対応する運行方法の検討 （ア）グループタクシーの実証実験

(3) 木祖村

①総合計画

計画名称等	木祖村第5次総合計画
検討組織	木祖村第5次総合計画 策定委員
計画期間	2018年度(平成30年度)～2027年度(令和9年度)までの10年間
方針・目標	4. 安全、安心の地域づくり (2) 道路・交通 (中略) 生活を支える交通については、コミュニティバス・デマンドタクシーなどを活用し、効率的な運用を図る。
取組施策	(2) 道路・交通 ⑥コミュニティバスなどについて、利用者の要望を取り入れながら、効率的な運行を随時、研究。

(4) 王滝村

①総合計画

計画名称等	第5次王滝村総合計画
検討組織	王滝村総合戦略会議委員
計画期間	2021年度(令和3年度)～2025年度(令和7年度)までの5年間
方針・目標	4-2 公共交通対策 幹線路線バス(木曽町生活交通システム)、村内巡回バス、社会福祉協議会による輸送サービス等の交通施策について、従事者の確保を含め、持続可能な交通システムとすると同時に、デマンド運行方式の導入など、住民の利便性を更に向上する。合わせて来訪者の2次アクセスを確保する
取組施策	(1) 幹線移動手段の見直しによる移動手段の利便性向上 (2) 効率的な交通システム構築と物流イノベーション (3) 観光路線バス事業の見直しによる2次アクセスの確保 (4) 輸送事業従事者の確保

(5) 大桑村

①総合計画

計画名称等	第5次大桑村総合計画 後期基本計画
検討組織	大桑村総合計画後期基本計画審議会
計画期間	2019年度（令和元年度）～2023年度（令和5年度）までの5年間
方針・目標	基本目標3 計画的な土地利用を推進するとともに、定住基盤となる住宅・宅地の整備や人・物・情報の交流を一層促進する道路・交通・情報通信基盤の整備など、快適で住みやすいむらづくりを進める。
取組施策	(1) 国道の整備促進 (2) 木曽川右岸道路の整備促進 (3) 県道の整備促進 (4) 村道の適正管理と整備 (5) 鉄道交通の充実 (6) 公共交通の充実

②地域公共交通網形成計画

計画名称等	大桑村地域公共交通網形成計画
検討組織	大桑村地域公共交通協議会
計画期間	平成28年度（2016）から平成32年度（2022）までの5年間
方針・目標	(1) 真に公共交通を必要とする人を優先します (2) 持続可能な地域公共交通網となるようマネジメントします (3) みんなで地域公共交通のことを考えます (4) 地域公共交通を把握し、改善します
取組施策	地域公共交通の運行・改善、環境整備 ①くわちゃんバスの運行・改善 ②乗合タクシーの運行・改善 ③停留所の待合環境の整備

(6) 木曽町

①総合計画

計画名称等	第2次木曽町総合計画（基本構想・基本計画）
検討組織	木曽町総合計画審議会
計画期間	基本構想 2018年度（平成30年度）～2027年度（令和9年度）までの10年間 前期基本計画 2018年度（平成30年度）～2022年度（令和4年度）
方針・目標	第2節暮らしをつなぐネットワークのまちづくり 3 公共交通の充実 日常生活の利便性を高めるため、公共交通機関の維持・向上に努めるとともに、地域間連絡バスなど、さらなる公共交通機関の充実を図る。
取組施策	3 公共交通の充実 ①生活交通システムの維持・確保 ②鉄道の利便性の向上 ③高速バス路線の維持

②地域公共交通計画

計画名称等	木曽町地域公共交通計画
検討組織	木曽町地域公共交通協議会
計画期間	2022年度（令和4年度）～2026年度（令和8年度）までの5年間
方針・目標	（6）広域的な体系の構築に向けた展開 （中略）令和2年度に木曽広域連合を事務局とし、木曽郡6町村で構成される「木曽地域公共交通活性化協議会」が発足し、令和3年度に広域での調査事業が実施されたところである。長野県全体としても、令和3年度に「長野県地域公共交通活性化協議会」が発足し、全県計画の策定、ならびに木曽地域の個別の計画も策定される可能性が高まってきている。この計画のなかでは全県における骨格的な路線が位置づけられる予定であり、木曽町交通システムの幹線路線もこれに該当する可能性がある。加えて、伊那方面、高山方面などの広域圏跨ぎの路線についても、検討対象になる可能性も考えられる。したがって、この動きを見据えた事業を構築していく必要がある。
取組施策	9-6 広域連携事業 ・長野県地域公共交通における地域別計画（木曽地域）への関与 ・計画に位置づけられた具体的事業の実施

③都市計画マスタープラン

計画名称等	木曽町都市計画マスタープラン
検討組織	木曽町
目標年次	2037年度（令和19年度）
方針・目標	3-2 交通体系の基本方針 （中略）日常生活の利便性を高めるため、鉄道、バス等の公共交通の維持・向上に努めるとともに、地域間連絡バスなど、さらなる公共交通の充実を図る。
取組施策	②公共交通機関の利便性の向上 ○鉄道・バス利用者の増進 ○生活交通システムの維持・確保